

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6815199号
(P6815199)

(45) 発行日 令和3年1月20日(2021.1.20)

(24) 登録日 令和2年12月24日(2020.12.24)

(51) Int.Cl. F 1
A 4 7 B 77/04 (2006.01) A 4 7 B 77/04 A

請求項の数 22 (全 39 頁)

(21) 出願番号	特願2016-536773 (P2016-536773)	(73) 特許権者	516162951
(86) (22) 出願日	平成26年11月14日(2014.11.14)		レオナルド エス. アール. エル.
(65) 公表番号	特表2017-501784 (P2017-501784A)		イタリア国 22060 フィジーノ セ
(43) 公表日	平成29年1月19日(2017.1.19)		レンツァ シーオー, ヴィア レオバルデ
(86) 国際出願番号	PCT/EP2014/003066		ィ 8
(87) 国際公開番号	W02015/082045	(74) 代理人	100091683
(87) 国際公開日	平成27年6月11日(2015.6.11)		弁理士 ▲吉▼川 俊雄
審査請求日	平成29年11月6日(2017.11.6)	(74) 代理人	100179316
(31) 優先権主張番号	M12013A002035		弁理士 市川 寛奈
(32) 優先日	平成25年12月6日(2013.12.6)	(72) 発明者	カッターネオ, カルロ
(33) 優先権主張国・地域又は機関	イタリア(IT)		イタリア国 アイー22060 フィジー
			ノ セレンツァ シーオー, ヴィア レオ
			ナルド ダ ヴィンチ 5
		審査官	伊藤 翔子
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 壁掛け型食器棚の自在離脱防止システム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

壁掛け型食器棚の離脱防止システムであって、壁掛け型食器棚(150)が、吊下げブラケット(155)のフック(156)によって、壁(P)に固定される支持体(157、157A、157B、157C)に引っ掛けられ、

該離脱防止システムは、前記壁(P)と一体的な第1のベース(160、260、360、460、560、600)、又は、前記支持体(157A、157B、157C)に組付けられる第2のベース(160A、160B、160C)、及び、前記壁掛け型食器棚(150)の上部(153)の上で前記第1のベース(160、260、360、460、560、600)又は前記第2のベース(160A、160B、160C)に組み付けられる上下位置調整可能なブロック要素(161、261、361、461、561、661)を組み合わせることで、前記壁掛け型食器棚(150)の上方への移動、したがって、前記支持体(157、157A、157B、157C)からの前記フック(156)の自由な離脱を防止するために、前記ブロック要素(161、261、361、461、561、661)を前記上部(153)の上から押さえて固定し、前記ブロック要素(161、261、361、461、561、661)の固定及び解放可能な手段(162、291; d、394、471; 542、546、543、544; 605、606)を有することを特徴とする、離脱防止システム。

【請求項2】

前記ブロック要素は、カーソル(161、261、361、461)からなり、前記カ

10

20

ーソル（１６１、２６１、３６１、４６１）が前記第１のベース（１６０、２６０、３６０、４６０）に組み付けられることによって、２つの位置、すなわち、前記上部（１５３）から離れた（分離された）第１の非動作位置と、前記上部（１５３）に対して実質的に緩衝される動作位置との間で移動することができることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項３】

前記カーソル（１６１、２６１）は、前記上部（１５３）に作用する水平セクション（１６９）、及び、前記第１のベース（１６０、２６０）に組み付けられる鉛直セクション（１７０）を有するＬ字形ブラケットからなることを特徴とする、請求項２に記載のシステム。

10

【請求項４】

前記ブロック要素は、単一の水平止め部（４６９、５６９）からなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項５】

前記ブロック要素は、前記上部（１５３）の上に位置決めすることができるアーム（６０３）を備えるレバー（６０２）からなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項６】

前記解放可能な固定手段は、前記カーソル（１６１）を前記第１のベース（１６０）に対して緩衝するボルト（１６２）からなることを特徴とする、請求項２に記載のシステム。

20

【請求項７】

前記解放可能な固定手段は、前記第１のベース（２６０）に対する前記カーソル（２６１）の安定した位置決めのためのねじ（２９１）からなることを特徴とする、請求項２に記載のシステム。

【請求項８】

前記解放可能な固定手段は、前記第１のベース（３６０）のそれぞれのラック（３９４）に弾性的にスナップ係合する、弾性的に降伏する歯（d）からなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項９】

前記解放可能な固定手段は、前記第１のベース（４６０）に対して直接的に作用するねじ（４７１）からなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

30

【請求項１０】

前記解放可能な固定手段は、前記第１のベース（５６０）のそれぞれの側部ガイド（５４３）に弾性的にスナップ係合する、前記ブロック要素（５６１）上の歯（５４４）、及び、前記第１のベース（５６０）のそれぞれの穴（５４６）に係合する前記ブロック要素（５６１）上のピン（５４２）の組み合わせからなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１１】

前記解放可能な固定手段は、前記第１のベース（６００）及び前記ブロック要素（６６１）にそれぞれ位置決めされる前歯（６０５、６０６）による接続部からなることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

40

【請求項１２】

前記第１のベース（１６０）は、隆起した中央ガイド（１６３）、及び、だぼ（１６６）によって前記第１のベース（１６０）を前記壁（P）に固定するための穴（１６５）を有する２つの側部フランジ（１６４）を備え、前記ガイド（１６３）は、上部が開口したスリット（１６７）及び一対の外側レール（１６８）も有することを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１３】

前記第１のベース（２６０）は、下部には、だぼによって前記壁（P）に固定されるた

50

めの穴（２８５）を有するフランジ（２８４）が備え付けられ、該フランジ（２８４）と同じ平面にある中央セクション（２８６）、及び、該中央セクション（２８６）から突出する２つの側部セクション（２８７）を有する形状であり、前記セクション（２８６）の上端は、ねじ穴（２８９）が備え付けられたヘッド（２８８）を画定するように水平方向に曲がることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１４】

前記第１のベース（３６０）は、下側水平面（３９２）が、だばによって前記壁（Ｐ）に固定されるための穴（３９３）を有する、実質的に矩形のフレームであり、前記第１のベース（３６０）の鉛直側の内面にはラック（３９４）が備え付けられることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

10

【請求項１５】

前記第１のベース（４６０）は、隆起した中央ガイド（４６３）、及び、だばによって前記第１のベース（４６０）を前記壁（Ｐ）に固定するための穴（４６５）を有する２つの側部フランジ（４６４）を備えることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１６】

前記第１のベース（５６０）は、だばによって前記壁（Ｐ）に固定されるための穴（５４７）を有する矩形の額（５４８）であり、該額（５４８）は、前記ブロック要素（５６１）の相補的なピン（５４２）が係合する複数の穴（５４６）も有することを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

20

【請求項１７】

前記第１のベース（６００）のピン（６０４）上で回転する、アーム（６０３）を含むレバー（６０２）からなる前記ブロック要素（６６１）が、前記ベース（６００）に組み付けられ、前記レバー（６０２）は、前記ベース（６００）及び該レバー（６０２）にそれぞれ位置決めされる前歯（６０５、６０６）による接続部によって前記第１のベース（６００）に連結され、前記歯（６０５、６０６）を相互係合して保つばね（６０７）を有することを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１８】

前記第１のベース（１６０）は前記壁（Ｐ）に直接的に固定されることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項１９】

30

前記第２のベース（１６０Ａ、１６０Ｂ、１６０Ｃ）はプレート又は棒（１５７Ａ、１５７Ｂ、１５７Ｃ）に組み付けられることを特徴とする、請求項１に記載のシステム。

【請求項２０】

水平に移動するように、前記棒（１５７Ａ）の上縁（１７６Ａ）に連結されるチャンネルセクション（１７５Ａ）が、前記第２のベース（１６０Ａ）から下に延びることを特徴とする、請求項１９に記載のシステム。

【請求項２１】

延長部（１７７Ｂ）を有する前記第２のベース（１６０Ｂ）が下方に延び、該延長部（１７７Ｂ）は、前記棒（１５７Ｂ）を座部（１７８Ｂ）によって包囲するような形状であり、前記座部（１７８Ｂ）には、上部には、前記棒（１５７Ｂ）の上縁（１７６Ｂ）に引っ掛けられるフック（１７９Ｂ）が備え付けられており、下部には、前記第２のベース（１６０Ｂ）を前記壁（Ｐ）に対して押してブロックするように下縁（１８１Ｂ）に対して締め付けられるビード（１８０Ｂ）が備え付けられることを特徴とする、請求項１９に記載のシステム。

40

【請求項２２】

延長部（１７７Ｃ）を有する前記第２のベース（１６０Ｃ）が下方に延び、該延長部（１７７Ｃ）は、前記棒（１５７Ｃ）を座部（１７８Ｃ）によって包囲するような形状であり、前記座部（１７８Ｃ）には、上部には、前記棒（１５７Ｃ）の上縁（１７６Ｃ）に引っ掛けられるフック（１７９Ｃ）が備え付けられており、下部には、下縁（１８１Ｃ）に係合する歯（１８２Ｃ）が備え付けられており、前記第２のベース（１６０Ｃ）は、ビー

50

ド（１８３Ｃ）を締め付けることによって適所にブロックされることを特徴とする、請求項１９に記載のシステム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、固定壁支持体に引っ掛けられる壁掛け型食器棚の自在離脱防止システムに関し、包括的には、好適に形作られた金属の棒又はプレートに関する。

【背景技術】

【０００２】

自在という用語は、目に見えるか又は隠れているかに関係なく、任意のタイプの構造、並びに／又は、高さ及び深さの調節機構を有する吊下げブラケットが備え付けられた家具に無差別に適用することができる離脱防止システムを指す。

10

【０００３】

当業者には既知であるように、壁掛け型食器棚を壁に拘束するシステムは、例えば、同じ食器棚の後部において（存在する場合に）内張りを通して延びて、壁に固定される上記棒又はプレートに自由に引っ掛けられるフックを備える吊下げブラケット装置の使用を想定する。

【０００４】

このタイプの吊下げブラケット（いわゆる可視ブラケット）が、例えば、特許文献１及び特許文献２から既知である。

20

【０００５】

直接的な上方への力が引っ掛けられた食器棚に加えられる場合、食器棚は、支持体から外れて落下する可能性があり、物体にだけでなくとりわけ人々にも深刻な損傷を与える。

【０００６】

この可能性は、現在のところ、とりわけ子供の一部において、上記で示した偶発的な離脱のリスクを固める、床から比較的低い高さにある壁掛け型食器棚を組み立てることがますます一般的になっているため、更により問題となる。

【０００７】

さらに、各国において安全規則が発効されており、また、発効されようとしており、これは、壁掛け型食器棚に関連する偶発的な離脱を防止するシステムを設けることを課す。

30

【０００８】

既知のタイプの壁掛け型食器棚の離脱防止システムは、例えば、特許文献３及び特許文献４に記載されている。これらのＰＣＴ特許出願の双方は、可視吊下げブラケットに適用される離脱防止システムを記載している。

【０００９】

特許文献５は、他方で、隠されたタイプの吊下げブラケットに適用される離脱防止システムを記載している。

【００１０】

上記で挙げた３つのＰＣＴ特許出願の目的である離脱防止システム、及び、既知の技術の他の離脱防止システムは、吊下げブラケットに全て組み込まれ、高さ及び深さ調節機構の一部を形成する。

40

【００１１】

したがって、既知の技術によると、自在離脱防止システム、すなわち、使用される吊下げブラケットのタイプとは全く独立する離脱防止システムはなく、このことから全ての明らかな欠点が生じる。

【００１２】

不都合点は、ユーザが、離脱防止システムが必要ではないか又は所望されない場合であっても、離脱防止システムが組み込まれた吊下げブラケットを採用することを強制されることに由来する可能性がある。離脱防止システムの存在によって、食器棚に、操作工具の

50

ためのアクセススロットを含まなければならない、美的な目的で相対的なカバーキャップを伴い、食器棚の更なる製造コストをもたらすことにも留意されたい。

【0013】

したがって、市場の需要を十分に満たすためには、2つのタイプの吊下げブラケット：離脱防止システムを有しないタイプ及び離脱防止システムを有するタイプを利用する必要があり、全て相対コストが伴う。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0014】

【特許文献1】欧州特許第0033179号

10

【特許文献2】欧州特許第0632979号

【特許文献3】PCT/EP2010/001601号

【特許文献4】PCT/EP2011/006113号

【特許文献5】PCT/EP2011/001593号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0015】

したがって、本発明の包括的な目的は、自在式の、すなわち、あらゆるタイプの吊下げブラケットとともに使用することができる、壁掛け型食器棚の離脱防止システムを提供することである。

20

【0016】

本発明の更なる目的は、構造的に単純であり、壁掛け型食器棚の組み立てを複雑にしない自在離脱防止システムを提供することである。

【0017】

本発明の別の目的は、容易に解放することができ、すなわち、必要であれば、食器棚を壁から容易かつ迅速に取り外すことを可能にする離脱防止システムを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0018】

上記の目的は、本発明に従って、添付の特許請求の範囲、独立項及び従属項において規定されるような離脱防止システムによって達成される。

30

【0019】

本発明の構造的及び機能的な特徴、既知の技術に対するその利点も、添付の特許請求の範囲を参照して、本発明自体の革新的な原理に従って製造される壁掛け型食器棚の離脱防止システムの種々の可能な実施形態を示す以下の説明から明らかとなるであろう。

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】本発明の第1の実施形態に従って製造された離脱防止システムが設けられた壁掛け型食器棚を示す斜視図であり、上記システムが分解図で示されている。

【図2】本発明の第1の実施形態に従って製造された離脱防止システムが設けられた壁掛け型食器棚を示す縦断面図であり、上記システムが分解図で示されている。

40

【図3】離脱防止システムが動作位置において組み立てられて示されている、図1と同様の図である。

【図4】離脱防止システムが動作位置において組み立てられて示されている、図2と同様の図である。

【図5】図3と同様の図であるが、上部の後縁が（図1～図4の実施形態におけるように）内張りに当接して終端せず、内張りが同じ上部の後縁に対して引っ込んでいる、壁掛け型食器棚に適用される本発明を示す図である。

【図6】図4と同様の図であるが、上部の後縁が（図1～図4の実施形態におけるように）内張りに当接して終端せず、内張りが同じ上部の後縁に対して引っ込んでいる、壁掛け

50

【図 7】壁掛け型食器棚から分離された図 1～図 6 の離脱防止システムを示す分解斜視図である。

【図 8】壁掛け型食器棚から分離された図 1～図 6 の離脱防止システムを示す分解斜視図である。

【図 9】壁掛け型食器棚から分離された図 1～図 6 の離脱防止システムを示す分解斜視図である。

【図 11】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

10

【図 13】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 14】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1.5】図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 16】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

【図 1.7】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

【図 1.8】図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

【図 1.9】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

【図 30】図 1 ～ 図 8 の離脱防止システムの一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 3.1】図 1 から図 9 の離脱防止システム 1 の単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 2.1】図 1 図 2 の離脱防止システムの構成要素を詳細に示す図である。

【図 2.3】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

20

【図 2.4】 図 1～図 3 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 2.5】 図 1 ～ 図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 25】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 2 6】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 2 7】 図 1 ～ 図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 28】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 29】図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 30】図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 3 1】 図 1～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 3 2】図 1 ～図 9 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

30

【図 3 3】壁に直接的に適用される、図 1 ～図 3 2 の離脱防止システムのベースを示す分解斜視図である。

【図 3 4】壁に直接的に適用される、図 1 ～図 3 2 の離脱防止システムのベースを示す縦断面図である。

【図 3 5】図 3 3 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 3 6】図 3 4 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 3 7】図 3 3 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

40

【図 3 8】図 3 4 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 3 9】図 3 3 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 40】図 34 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 4 1】図 3 3 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 4 2】図 3 4 と同様の図であるが、壁に直接的に適用されるのではなく、壁掛け型食器棚を支持する同じ棒に適用される離脱防止システムのベースを示す図である。

【図 90】組み立てられた図 82～図 84 の離脱防止システムを示す図である。

【図 9 1】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 2】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 3】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 4】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 5】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 6】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 7】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 8】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 9 9】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
【図 1 0 0】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

10

。【図 1 0 1】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。
。【図 1 0 2】図 8 2～図 9 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である

。【図 1 0 3】本発明による離脱防止システムの第 5 の実施形態を示す分解斜視図である。
【図 1 0 4】本発明による離脱防止システムの第 5 の実施形態を示す分解斜視図である。
【図 1 0 5】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 0 6】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 0 7】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 0 8】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 0 9】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 1 0】組み立てられた図 1 0 3、図 1 0 4 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 1 1】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図で

20

ある。

【図 1 1 2】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 3】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 4】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

30

【図 1 1 5】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 6】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 7】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 8】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 1 9】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

40

【図 1 2 0】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 2 1】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 2 2】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 2 3】図 1 0 3～図 1 1 0 の離脱防止システムの単一の構成要素を詳細に示す図である。

【図 1 2 4】本発明による離脱防止システムの第 6 の実施形態を示す分解斜視図である。

50

【図 1 2 5】図 1 2 4 の離脱防止システムの機能モードを示す図である。
【図 1 2 6】図 1 2 4 の離脱防止システムの機能モードを示す図である。
【図 1 2 7】図 1 2 4 の離脱防止システムの機能モードを示す図である。
【図 1 2 8】図 1 2 4 の離脱防止システムの機能モードを示す図である。
【図 1 2 9】組み立てられた図 1 2 4 ～図 1 2 8 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 3 0】組み立てられた図 1 2 4 ～図 1 2 8 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 3 1】組み立てられた図 1 2 4 ～図 1 2 8 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 3 2】組み立てられた図 1 2 4 ～図 1 2 8 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 3 3】組み立てられた図 1 2 4 ～図 1 2 8 の離脱防止システムを示す図である。
【図 1 3 4】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 3 5】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 3 6】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 3 7】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 3 8】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 3 9】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 4 0】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。
【図 1 4 1】図 1 2 5 ～図 1 3 3 の離脱防止システムを詳細に示す図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0 0 2 1】

まず、図面の図 1 ～図 4 を参照すると、壁掛け型食器棚は 1 5 0 で図式化されており：底部 1 5 2 及び上部 1 5 3 によって相互接続された 2 つの肩部 1 5 1 を備え、可能な内張り 1 5 4 も設けられている。

20

【0 0 2 2】

壁掛け型食器棚 1 5 0 は、任意の既知の方法で、例えば、特許出願である P C T / E P 2 0 1 0 / 0 0 1 6 0 1 号、P C T / E P 2 0 1 1 / 0 0 6 1 1 3 号及び P C T / E P 2 0 1 1 / 0 0 1 5 9 3 号のタイプの物体の吊下げブラケット 1 5 5 によって、壁 P に吊るされる。

【0 0 2 3】

上記吊下げブラケット 1 5 5 には、壁 P 又は他の同様の及び／若しくは均等な支持体に固定されるプレート 1 5 7 （又は棒）に引っ掛けられるフック 1 5 6 が備え付けられている。

30

【0 0 2 4】

本発明によると、矢印 1 5 8 によって示されているような、上方に方向付けられる力によって生じるプレート又は棒 1 5 7 からの壁掛け型食器棚 1 5 0 の分離又は離脱は、壁 P と上部 1 5 3 との間への離脱防止システム 1 5 9 の挿入によって防止され、これは、特徴としては、食器棚 1 5 0 に設けられる吊下げブラケット 1 5 5 とは完全に独立する、

【0 0 2 5】

図 1 ～図 3 3 を参照すると、本発明の第 1 の実施形態による上記離脱防止システム 1 5 9 は、ベース 1 6 0、及び、例えばカーソル 1 6 1 の形態のブロック要素を備える。上記カーソル 1 6 1 は、上部 1 5 3 に対して緩衝されるまで、上記ベース 1 6 0 上で移動可能に組み付けられる（図 3 及び図 4）。この位置では、カーソル 1 6 1 は、壁掛け型食器棚 1 5 0 がプレート 1 5 7 から離脱することを防止するように、（以下でより詳細に説明するような）ボルト 1 6 2 からなる解放可能な固定手段によってベース 1 6 0 に固定される。

40

【0 0 2 6】

上記離脱防止システム 1 5 9 の構造は、図 7 ～図 3 2 において詳細に示される。

【0 0 2 7】

ベース 1 6 0 は、だぼ 1 6 6 （図 4 及び図 6）によってベース 1 6 0 を壁 P に固定するために、隆起した中央ガイド 1 6 3、及び、穴 1 6 5 を有する 2 つの側部フランジ 1 6 4 を備える。より具体的には、図面からはっきりと分かるように、ガイド 1 6 3 は、以下で

50

説明する目的で、上部が開口したスリット167、及び、一对の外側レール168も備える。

【0028】

カーソル161は、水平セクション169及び鉛直セクション170を有するL字形ブラケットを備える。

【0029】

水平セクション169は、ねじ171及びナット172を含むボルト162を収容する。

【0030】

図面、特に図15からはっきりと分かるように、操作ヘッド173を有するねじ171は、穴174を通り、ガイド163内で拘束されるナット172にねじ留めされ、平行移動する可能性はあるが回転する可能性はない（図10～図17）。

10

【0031】

水平セクション169は、上部153と協働し、矢印158の方向への食器棚155の上方への移動を防止する（図2及び図4）。

【0032】

カーソル161の鉛直セクション170は、ナット172のみのおかげではなく、ガイド163の外側レール168に係合する一对の側縁175にも起因して、拘束され、ベース160のガイド163上で平行移動する。

【0033】

20

図1～図34に示されている離脱防止システムの機能は、上述したものから明らかであり、以下で簡潔に記載する。

【0034】

プレート157（又は棒）及び1つ又は複数のベース160を壁Pに固定した後で（図33、図34）、ブラケット155がプレート157に引っ掛けられ（図1及び図2）、カーソル161が次に、その水平セクション169が上部153に当接するまで（図4及び図6）、ベース160に挿入される（図2）。この時点で、カーソル161は、ねじ171を締めることによって適所にしっかりとブロックされ、これによって、カーソル161自体がベース160にブロックされる。

【0035】

30

したがって、壁掛け型食器棚150の鉛直方向上方への移動が防止されることで、吊下げブラケット155がプレート157から離脱することが回避される。

【0036】

言い換えれば、カーソル161は、2つの位置、すなわち、上記上部153から離れた（分離された）第1の非動作位置と、上記上部153に対して緩衝されるか又は実質的に緩衝される動作位置との間で移動することができるよう、ベース160に組み付けられる。

【0037】

内張り154が上部153の後縁に対して緩衝されず、後縁に対して引っ込んでいるとき（図5及び図6）、上部153に座部S（開口）を作り（図5及び図6）、カーソル161が上部153自体に係合することを可能にしなければならないことを指摘しておくべきである。

40

【0038】

図35、図36；図37、図38、図39、図40；図41、図42、図43、図44は、図33、図34に示されているベース160に対して異なるが実質的に同等のそれぞれのベース160A、160B及び160Cを示している。

【0039】

実質的な違いは、ベース160は、プレート又は棒157から独立して壁Pに直接的に固定される一方で、ベース160A～Cは、プレート又は棒157A～Cに組み付けられることである。

50

【0040】

より具体的には、図35、図36を参照して、水平に移動するように、棒157Aの上縁176Aに連結されるチャンネルセクション175Aが、ベース160Aから下に延びる。このように、棒157Aが壁に固定された後で、ベース160Aを所望の位置に位置決めし、続いて壁P自体に固定することができる。

【0041】

したがって、ベース160Aと棒157Aとの間の完璧な相互の位置決めが確実となる。

【0042】

図37～図40に示されている実施形態では、延長部177Bを有するベース160Bが下方に延び、延長部177Bは、棒157Bを座部178Bによって包囲するような形状である。

10

【0043】

より具体的には、座部178Bには、上部には、棒157Bの上縁176Bに引っ掛けられるフック179Bが備え付けられており（図37、図38）、下部には、ベース160Bを壁Pに対して押してブロックするように下縁181Bに対して締め付けられるビード180Bが備え付けられている（図40）。

【0044】

また、図41～図44に示されている実施形態では、延長部177Cを有するベース160Cが下方に延び、延長部177Cは、棒157Cを座部178Cによって包囲するような形状である。

20

【0045】

より具体的には、座部178Cには、上部には、棒157Cの上縁176Cに引っ掛けられるフック179Cが備え付けられており（図43、図44）、下部には、下縁181Cに係合する歯182Cが備え付けられている。

【0046】

ベース160Cは、ビード183Cを締め付けることによって適所にブロックされる。

【0047】

図45～図55は、第1の実施形態の構成要素と同一及び／又は同様の構成要素が、100だけ増えた同じ参照符号で示されている、本発明の第2の実施形態を示している。

30

【0048】

この第2の実施形態は、ベース260、及び、当該ベース260上で移動することができるカーソル261を備える。ベース260には、下部には、ベース260をだばによって壁に固定するための穴285を有するフランジ284が設けられる。ベース260は、フランジ284と同じ平面にある中央セクション286、及び、当該中央セクション286から突出する2つの側部セクション287を有する形状である（図47及び図51）。セクション286の上端は、ねじ穴289が備え付けられたヘッド288を画定するように水平方向に曲がる。

【0049】

図面からはっきりと分かるように、ガイド溝290がカーソル261に存在し、カーソル261は、ベース260の側部セクション287において摺動する。ベース260上でカーソル261の移動は、壁掛け型食器棚の上部に係合するまで、穴289にねじ留めされるとともに、ベース260上でカーソル261を安定して位置決めさせるねじ291によって駆動される。

40

【0050】

図56～図81は、第1の実施形態の構成要素と同一及び／又は同様の構成要素が、200だけ増えた同じ参照符号で示されている、本発明の第3の実施形態を示している。

【0051】

この第3の実施形態は、ベース360、及び、当該ベース360上で移動するカーソル361を備える。ベース360は、実質的に矩形のフレームであり、その下側水平面39

50

2 が、だばによって壁に固定されることを可能にするように穴 3 9 3 を有する。

【0052】

図面からはっきりと分かるように、ベース 3 6 0 の鉛直側の内面には、ラック 3 9 4 が備え付けられている。カーソル 3 6 1 は、カバーキャップ 3 9 6 が挿入されてブロックされるカラー 3 9 5 を備える。

【0053】

2 つの直立部 3 9 7 がカラー 3 9 5 の後端から下方に延び、ベース 3 6 0 のそれぞれのガイド 3 9 8 に摺動して挿入される（図 5 6、図 5 7、図 2 8、図 6 2）。

【0054】

それぞれのブレードばね 3 9 9 が、カラー 3 9 5 から、直立部 3 9 7 に隣接して直立部 3 9 7 に対して 90° で延び、ブレードばね 3 9 9 は、下部が、ラック 3 9 4 の歯に弾性的にスナップ係合するのに好適な歯 d で終端する（図 6 6 ～図 6 9）。

10

【0055】

離脱防止システムの作動が、カーソル 3 6 1 が食器棚の上部に対して係合するまでカーソル 3 6 1 を押下して下方に移動させることによって行われる方法が明らかであり、上記係合は、歯 d をラック 3 9 4 に接続することによって安定する。

【0056】

離脱防止システムは、カラー 3 9 5 に対する側部からの圧力によって歯 d をラック 3 9 4 から離脱させるとともに、カーソル 3 6 1 を上方に引くことによって解除される（図 6 8、図 6 9）。

20

【0057】

図 8 2 ～図 1 0 2 は、第 1 の実施形態の構成要素と同一及び／又は同様の構成要素が、3 0 0 だけ増えた同じ参照符号で示されている、本発明の第 4 の実施形態を示している。

【0058】

この第 4 の実施形態は、ベース 4 6 0、及び、当該ベース 4 6 0 上で移動するカーソル 4 6 1 を備える。当該カーソル 4 6 1 は 1 つのみの水平止め部 4 6 9 からなる。

【0059】

ベース 4 6 0 は、隆起した中央ガイド 4 6 3、及び、だばによってベース 4 6 0 を壁に固定するための穴 4 6 5 を有する 2 つの側部フランジ 4 6 4 を備える。

【0060】

30

図面からはっきりと分かるように、蟻継ぎ接続部 4 4 9 が、後部においてカーソル 4 6 1 から延び、上記ガイド 4 6 3 に摺動可能に連結される。カーソル 4 6 1 は、ベース 4 6 0 上の適所に（食器棚の上部に対して）ブロックされ、ねじ 4 7 1 が、カーソル 4 6 1 自体の貫通穴 4 7 4 にねじ留めされ、その自由端がベース 4 6 0 に直接当接して係合する（図 8 7、図 9 0）。

【0061】

図 1 0 3 ～図 1 2 3 は、第 1 の実施形態の構成要素と同一及び／又は同様の構成要素が、4 0 0 だけ増えた同じ参照符号で示されている、本発明の第 5 の実施形態を示している。

【0062】

40

ベース 5 6 0 は、ベース 5 6 0 をだばによって壁に固定するための穴 5 4 7 を有する矩形の額 5 4 8 である。

【0063】

図面からはっきりと分かるように、上記額 5 4 8 は、ブロック要素 5 6 1 の相補的なピン 5 4 2 が係合する複数の穴 5 4 6 も有する。

【0064】

より具体的には、ブロック要素 5 6 1 は、弾性的に降伏するアーム 5 4 5 を有するカラー C からなる 1 つのみの水平止め部 5 6 9 からなり、アーム 5 4 5 は、額 5 4 8 の側部ガイド 5 4 3 と弾性的にスナップ係合するのに好適な歯 5 4 4 で終端する。

【0065】

50

図１０３及び図１０４においてははっきりと分かるように、壁掛け型食器棚の上部に実質的に当接して位置決めされるブロック要素５６１は、ピン５４２が穴５４６内に係合するように、水平移動によって作用することにより、ベース５６０に適用される。

【００６６】

ベース５６０上でのブロック要素５６１の安定した位置決めはしたがって、弾力的な歯５４４及びピン５４２の組み合わせた作用によって確実となる。

【００６７】

図１２４～図１４１は、だぼによって壁に固定されるための穴６０１を有するベース６００を備える、本発明の第６の実施形態を示している。

【００６８】

ベース６００のピン６０４上で回転する、アーム６０３を含むレバー６０２からなるブロック要素が、上記ベース６００に組み付けられる。図面においてははっきりと分かるように、レバー６０２は、ベース６００及びレバー６０２にそれぞれ位置決めされる前歯６０５、６０６による接続部によってベース６００に連結される。ばね６０７が、歯６０５、６０６を相互係合して保つ。

【００６９】

レバーが図１２５の上昇位置にある状態で、壁掛け型食器棚を壁支持体に対して引っ掛けるか又は外すことができ：一方で、レバーが図１２６、図１２７及び図１２９の下降位置にある状態で、アーム６０３を壁掛け型食器棚の上部１５３に接触させ、アーム６０３がしたがって適所にブロックされる方法が明らかである。

【００７０】

したがって、極めて経済的であることに加えて、吊下げブラケットとは独立して、任意のタイプの吊下げブラケットとともに使用することができる壁掛け型食器棚の離脱防止システムを製造するための、本明細書の序文において述べた目的が達成される。

【００７１】

本発明の保護範囲は、以下の特許請求の範囲によって規定される。

10

20

【図 1】

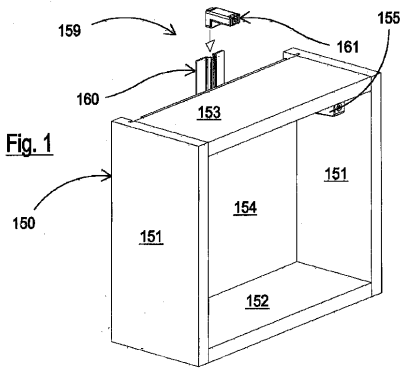


Fig. 1

【図 3】

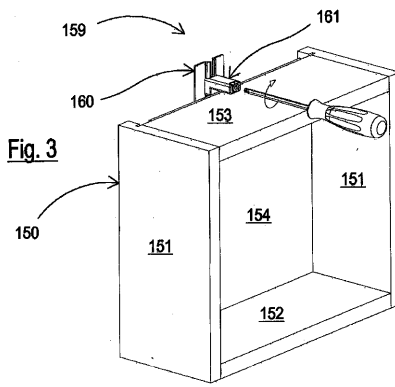


Fig. 3

【図 2】

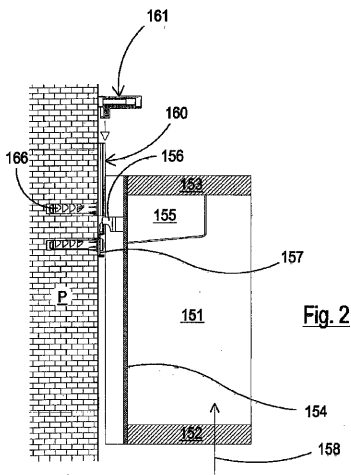


Fig. 2

【図 4】

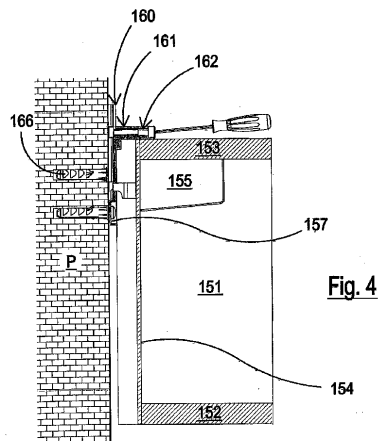


Fig. 4

【図 5】

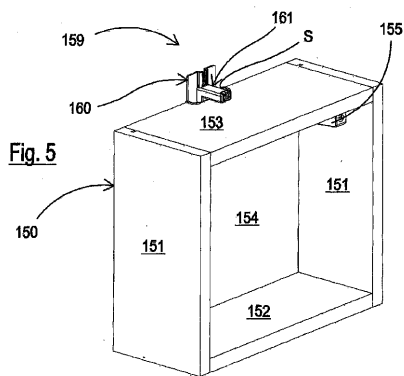


Fig. 5

【図 7】

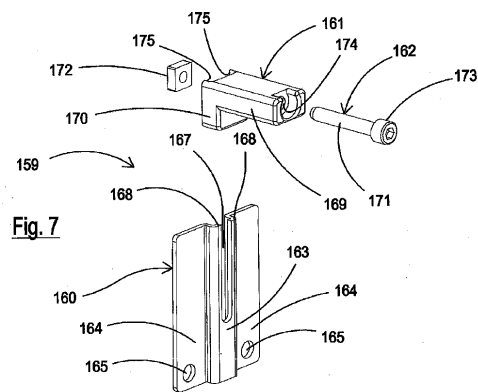


Fig. 7

【図 6】

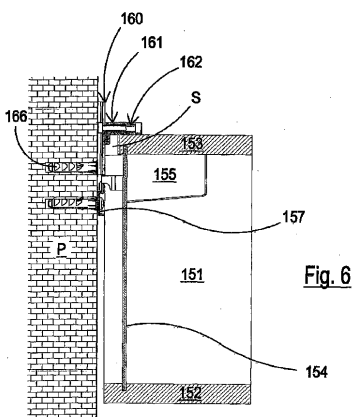
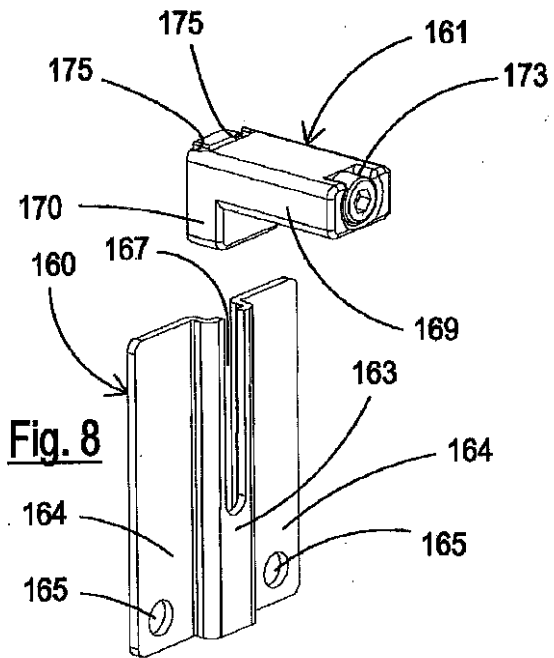
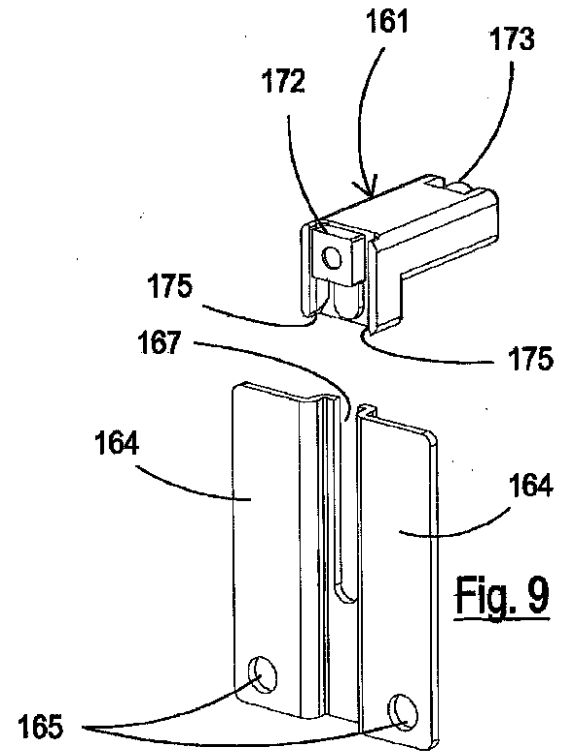


Fig. 6

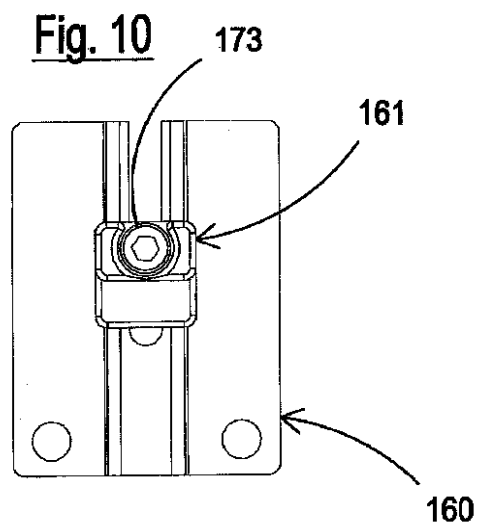
【図 8】



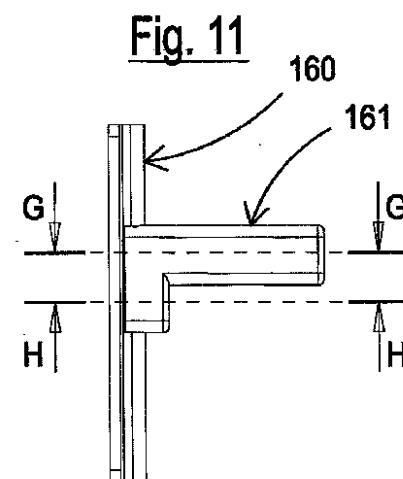
【図 9】



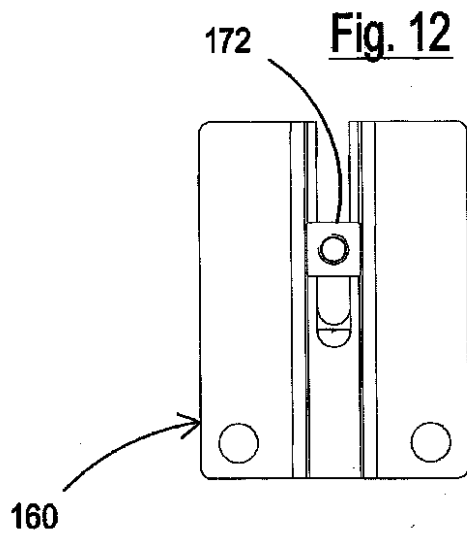
【図 10】



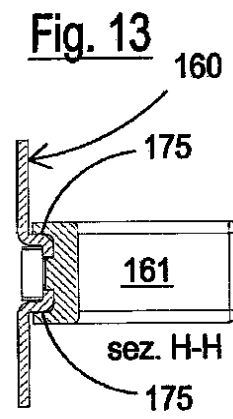
【図 11】



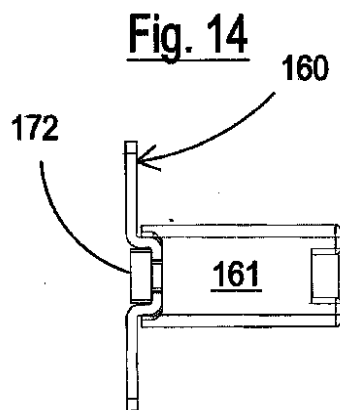
【図 12】



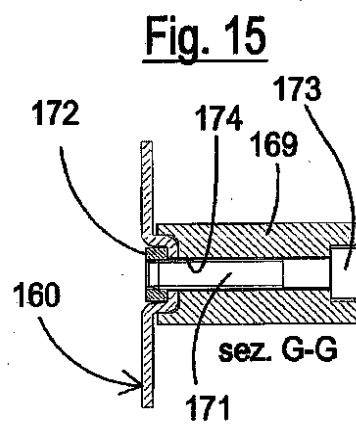
【図 13】



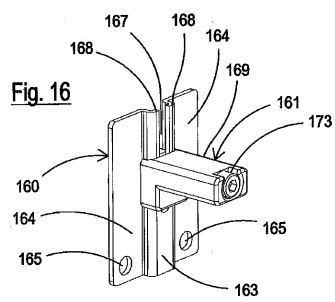
【図 14】



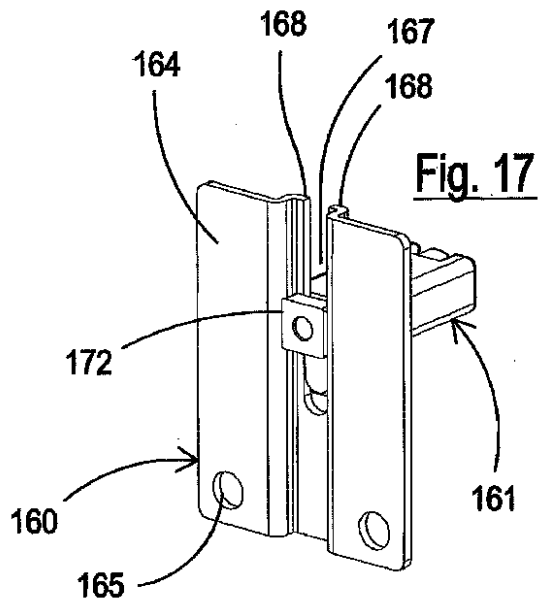
【図 15】



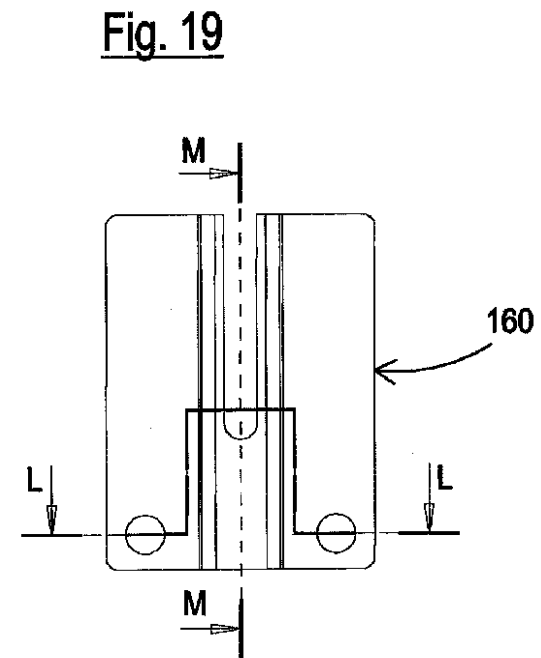
【図 16】



【図 17】

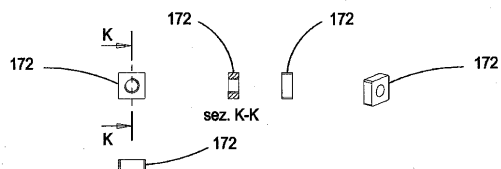


【図 19】

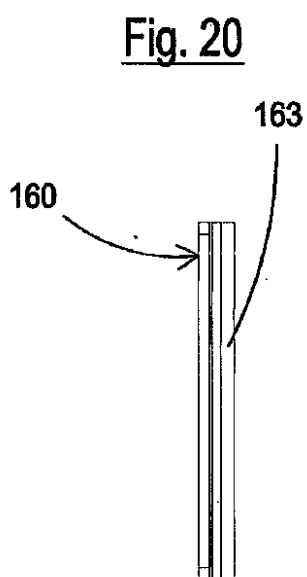


【図 18】

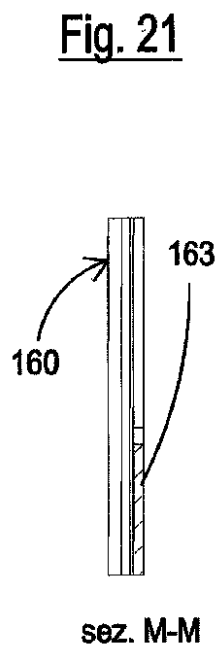
Fig. 18



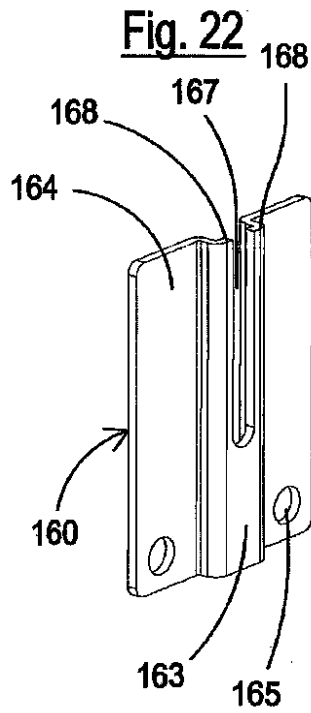
【図 20】



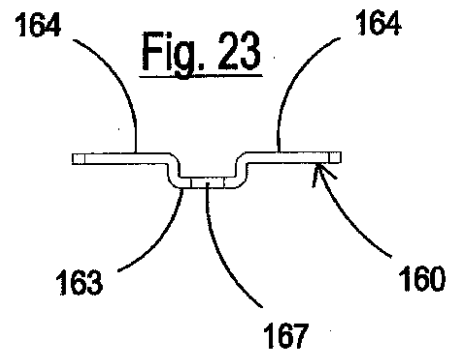
【図 21】



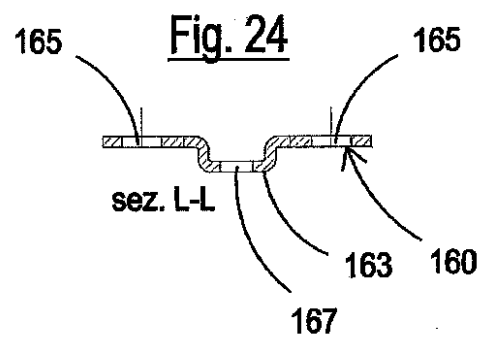
【図 2 2】



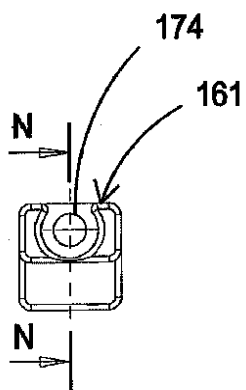
【図 2 3】



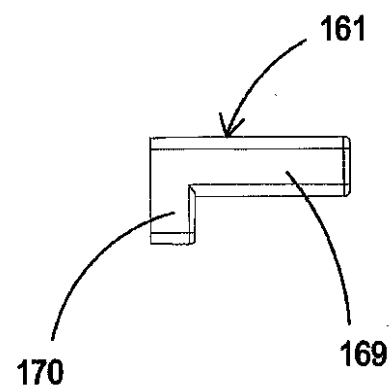
【図 2 4】



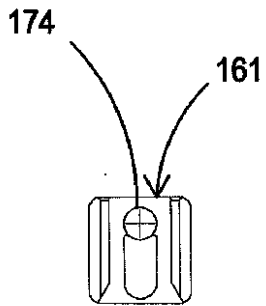
【図 2 5】

Fig. 25

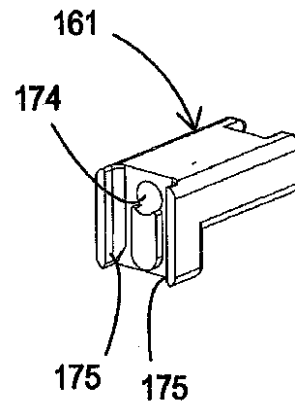
【図 2 6】

Fig. 26

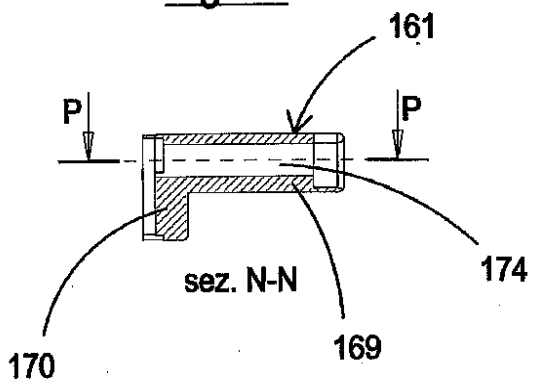
【図 27】

Fig. 27

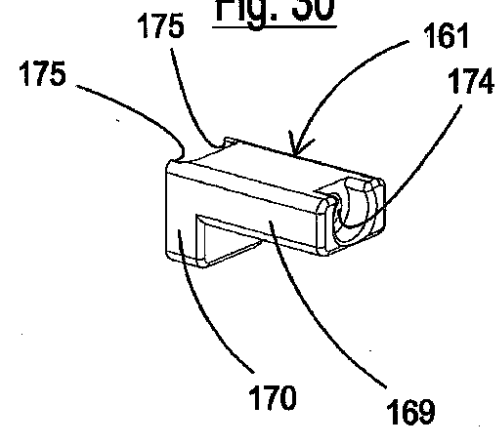
【図 28】

Fig. 28

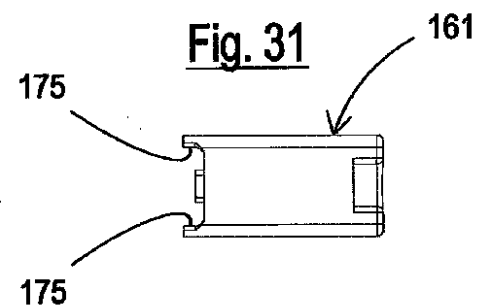
【図 29】

Fig. 29

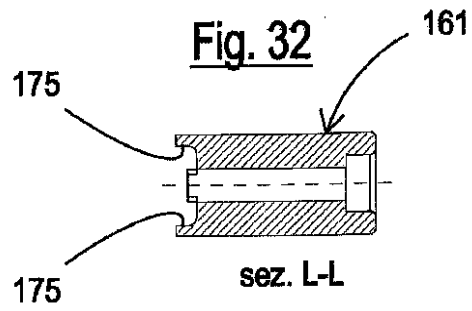
【図 30】

Fig. 30

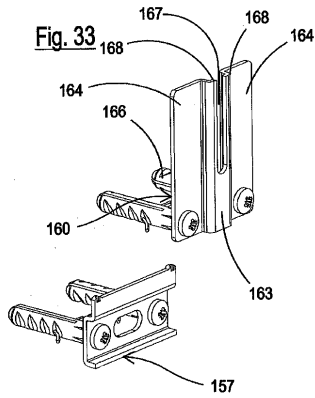
【図 31】

Fig. 31

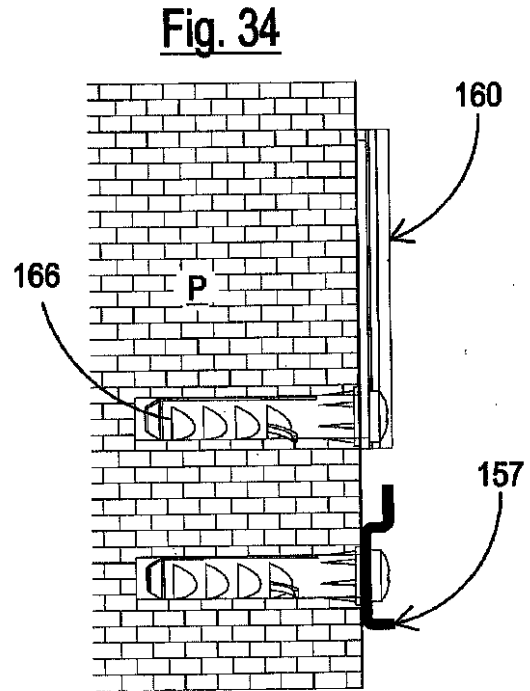
【図 3 2】



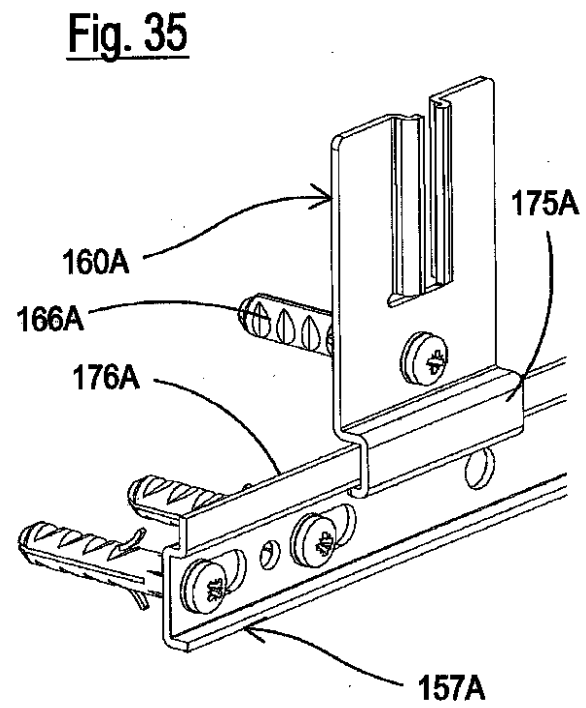
【図 3 3】



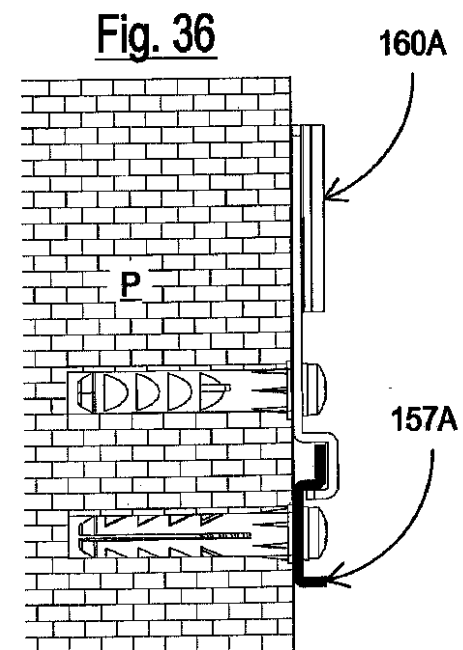
【図 3 4】



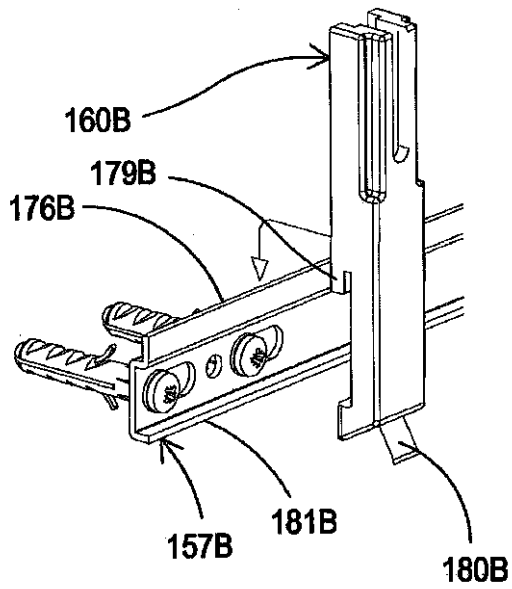
【図 3 5】



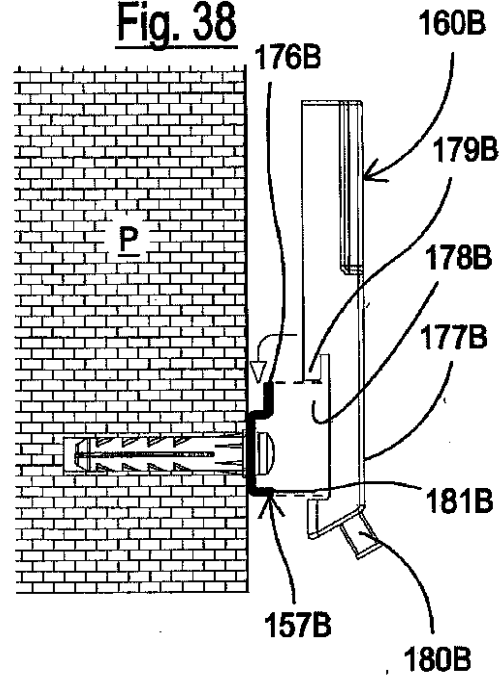
【図 3 6】



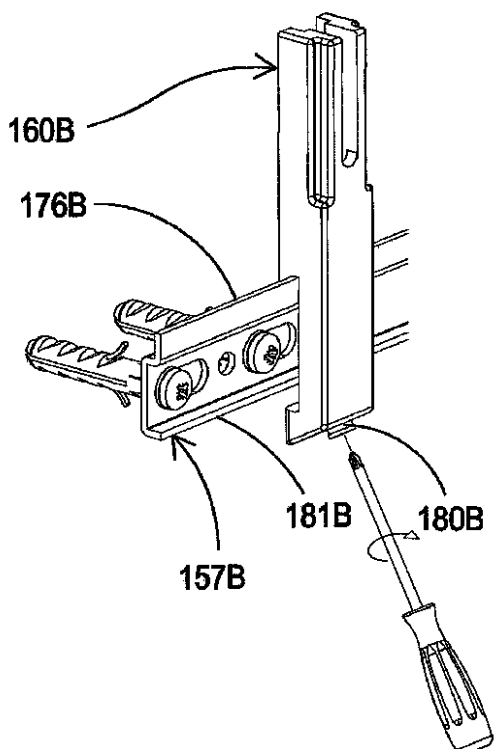
【図 37】

Fig. 37

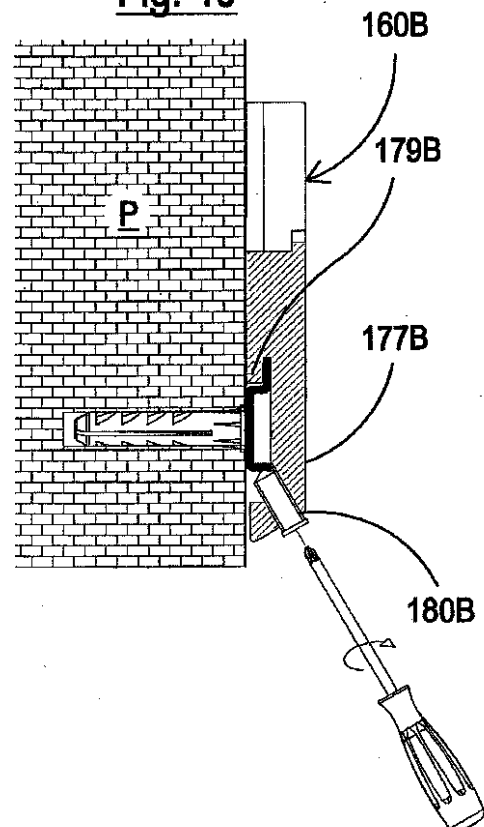
【図 38】

Fig. 38

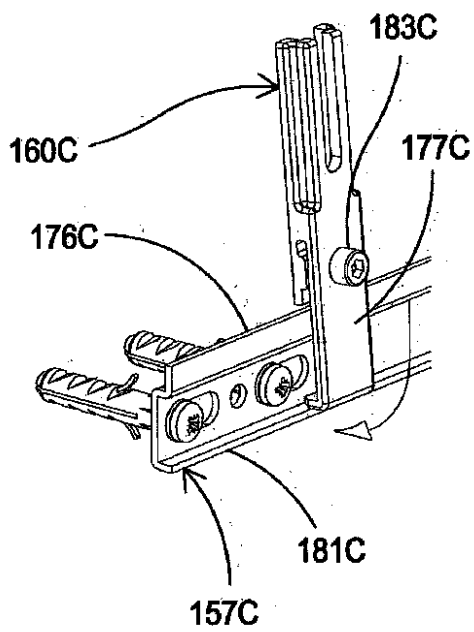
【図 39】

Fig. 39

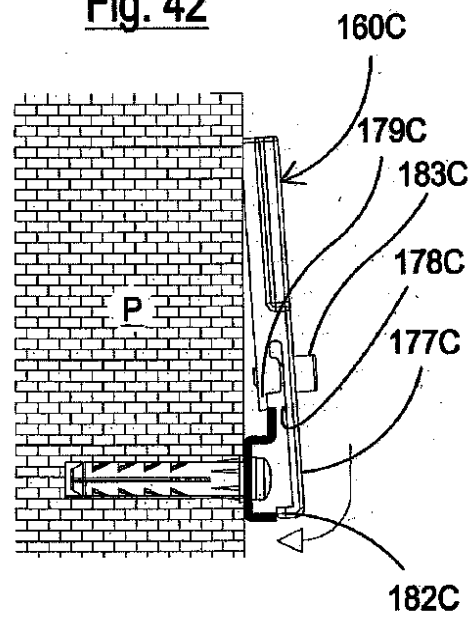
【図 40】

Fig. 40

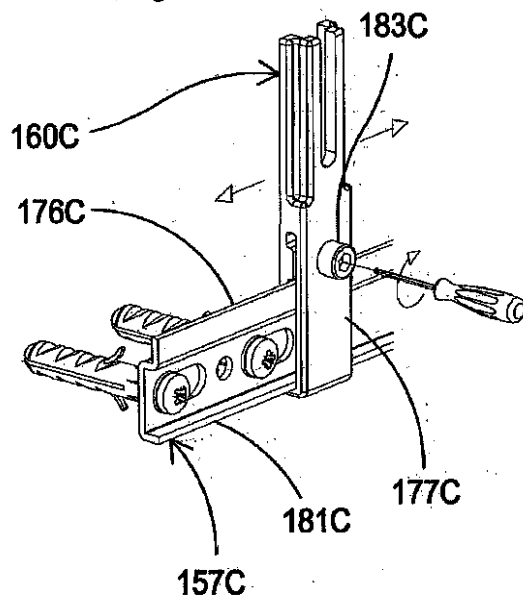
【図 4 1】

Fig. 41

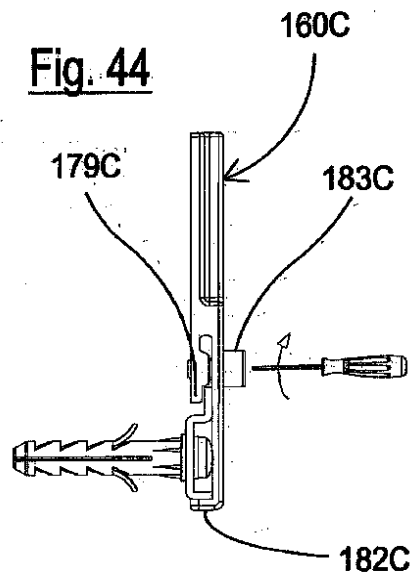
【図 4 2】

Fig. 42

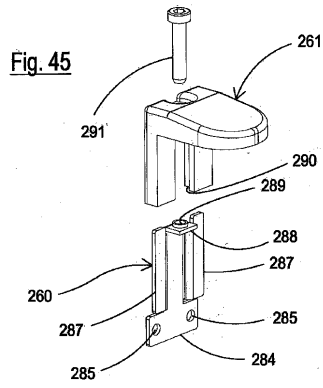
【図 4 3】

Fig. 43

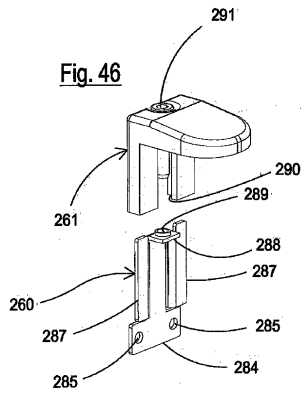
【図 4 4】

Fig. 44

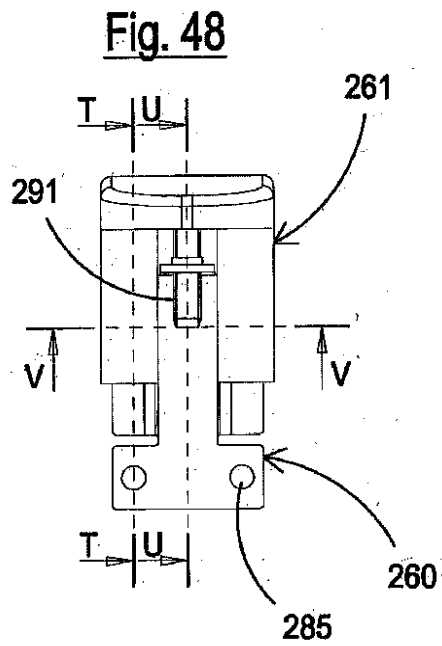
【図 4 5】



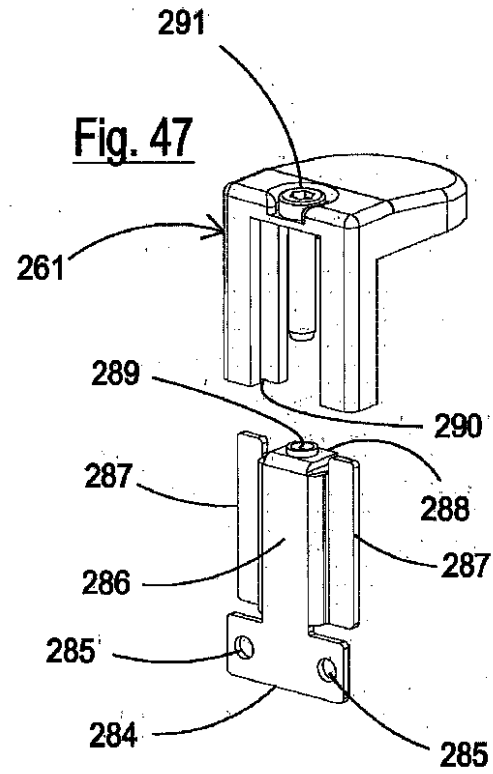
【図 4 6】



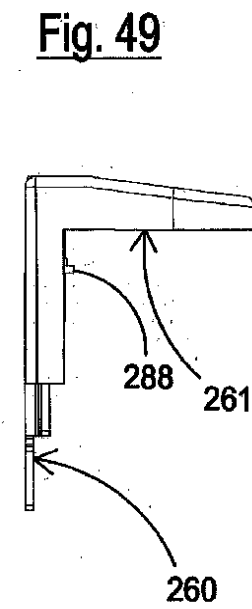
【図 4 8】



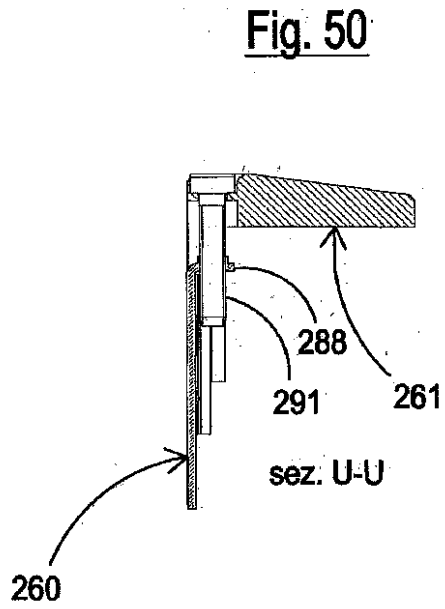
【図 4 7】



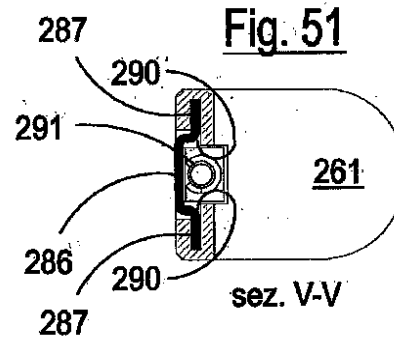
【図 4 9】



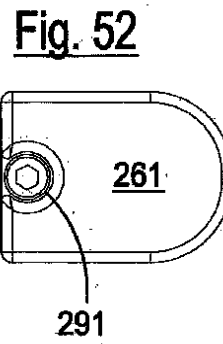
【図 5 0】



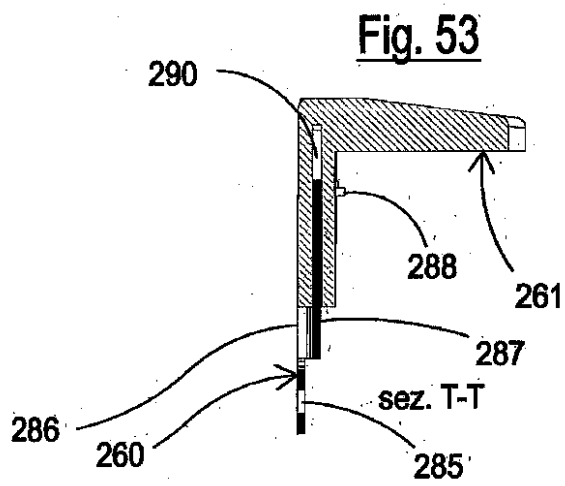
【図 5 1】



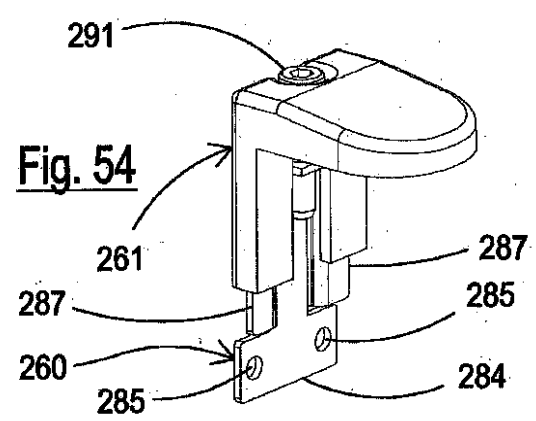
【図 5 2】



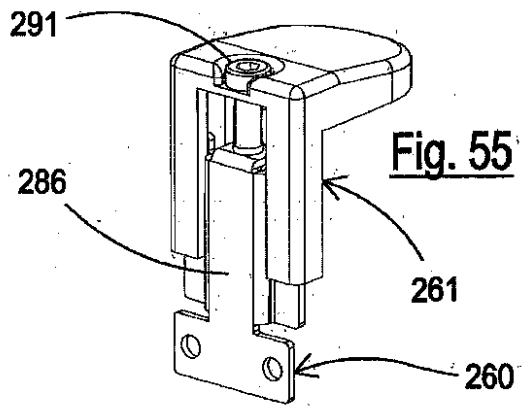
【図 5 3】



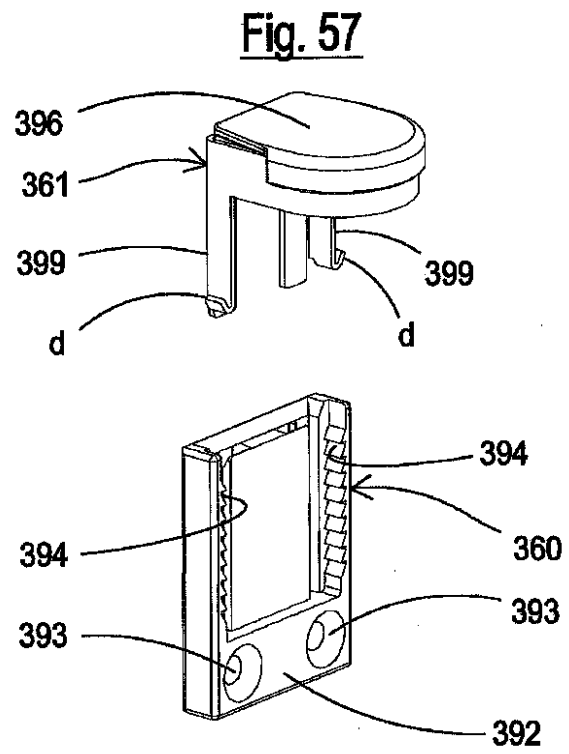
【図 5 4】



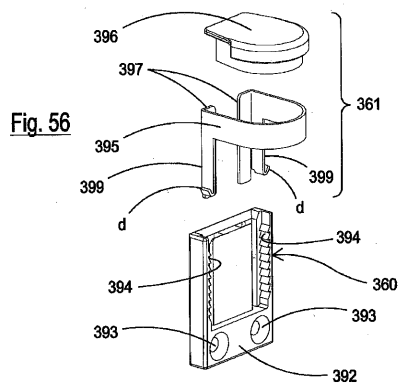
【図 5 5】



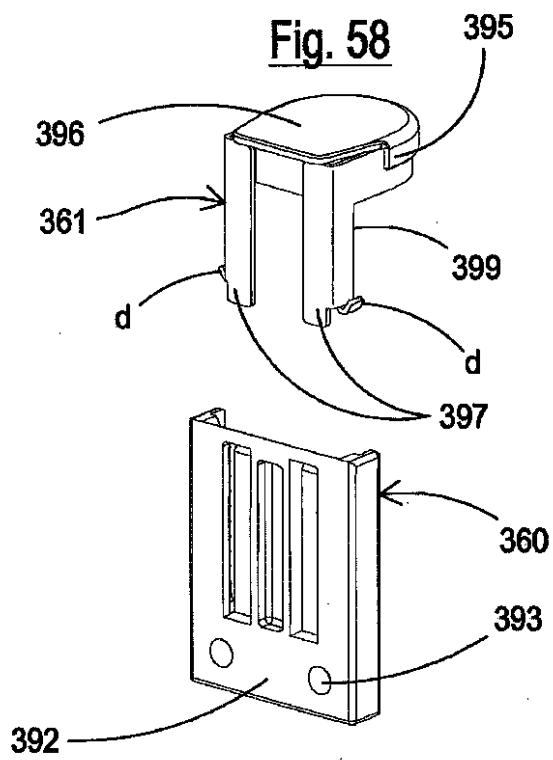
【図 5 7】



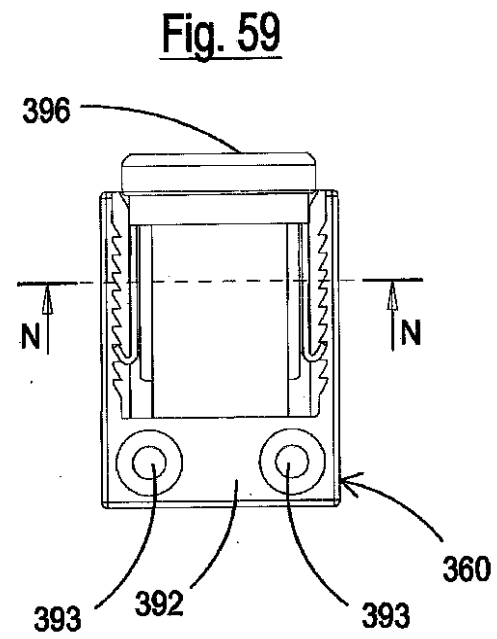
【図 5 6】



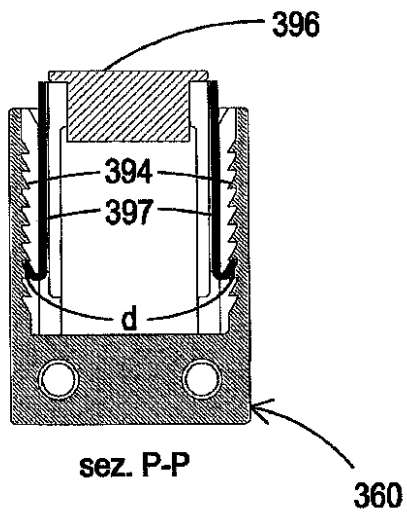
【図 5 8】



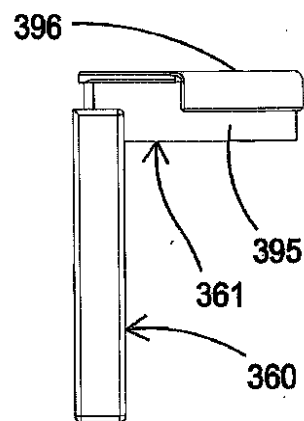
【図 5 9】



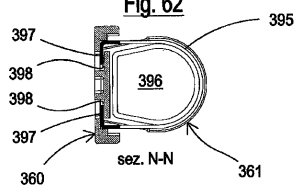
【図 60】

Fig. 60

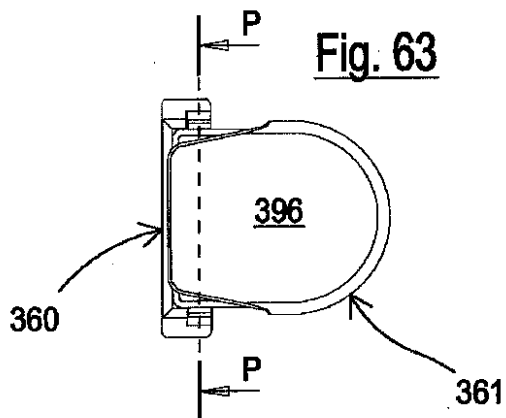
【図 61】

Fig. 61

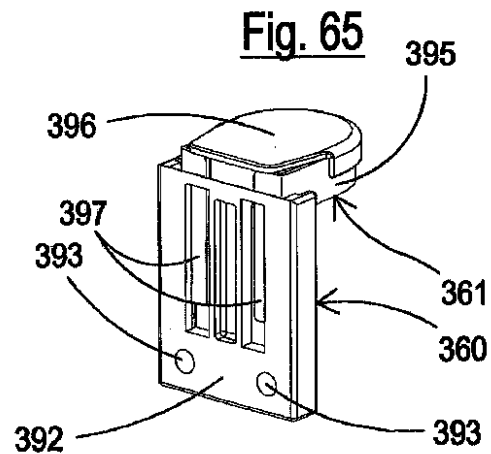
【図 62】

Fig. 62

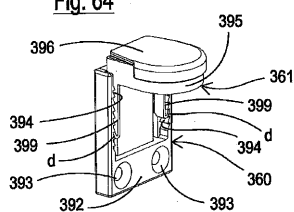
【図 63】

Fig. 63

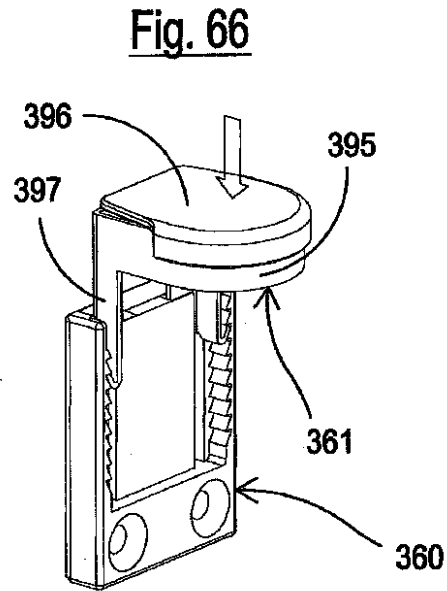
【図 65】

Fig. 65

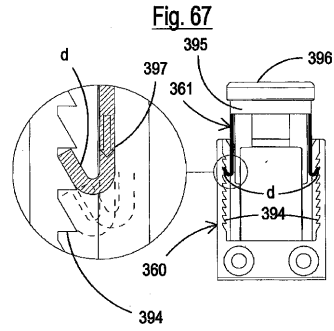
【図 64】

Fig. 64

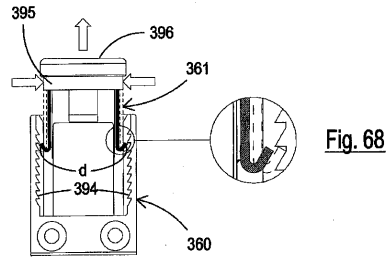
【図 66】



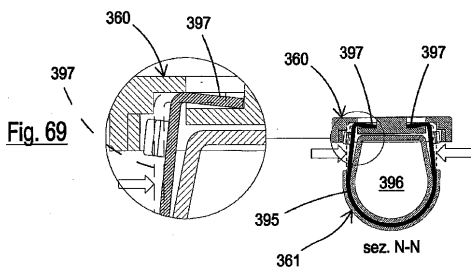
【図 67】



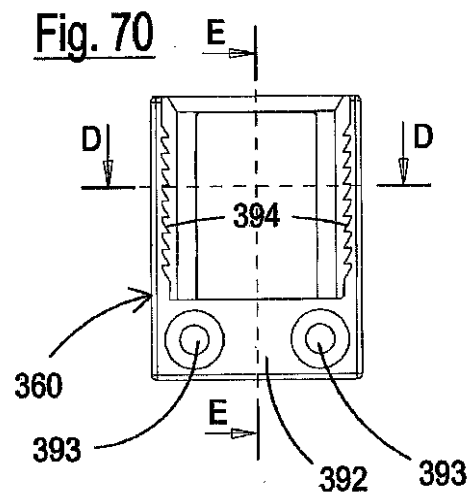
【図 68】



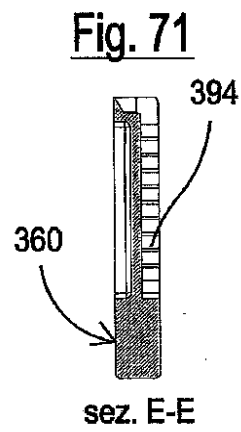
【図 69】



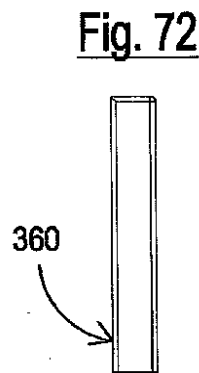
【図 70】



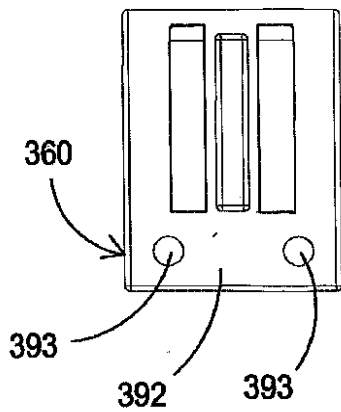
【図 71】



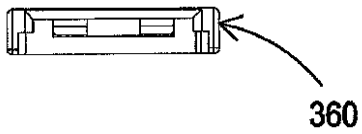
【図 72】



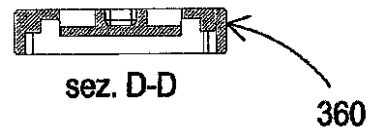
【図 7 3】

Fig. 73

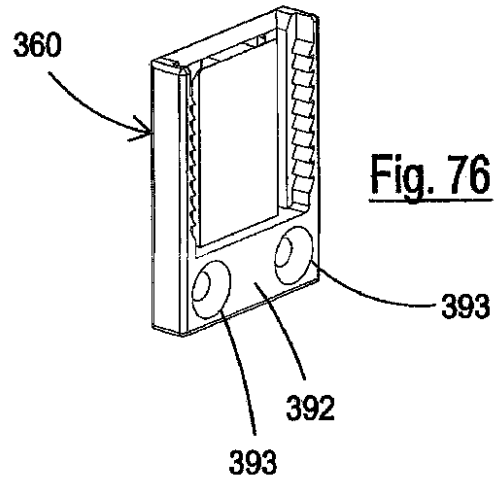
【図 7 4】

Fig. 74

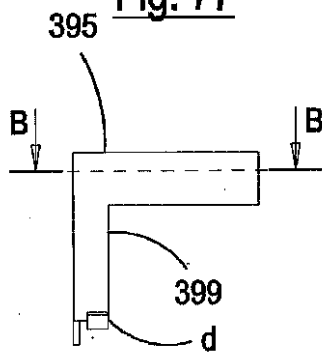
【図 7 5】

Fig. 75

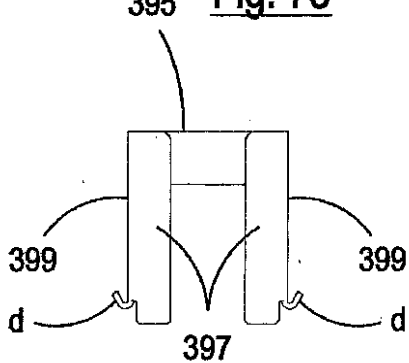
【図 7 6】



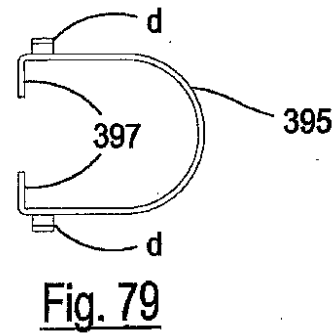
【図 7 7】

Fig. 77

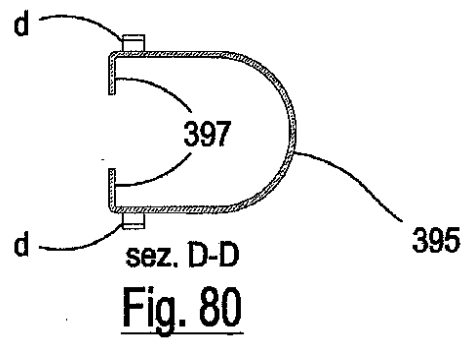
【図 7 8】

Fig. 78

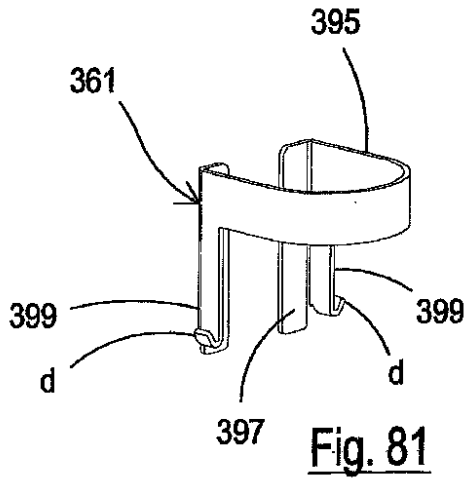
【図 7 9】



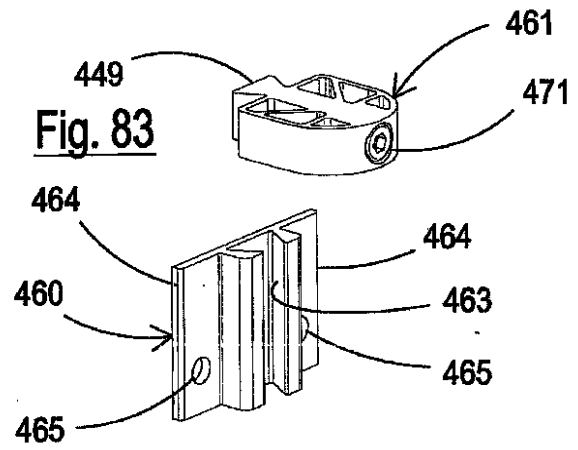
【図 8 0】



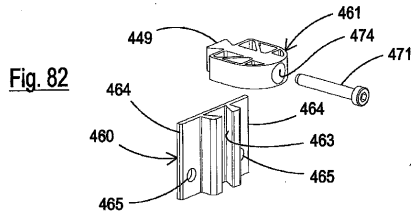
【図 8 1】



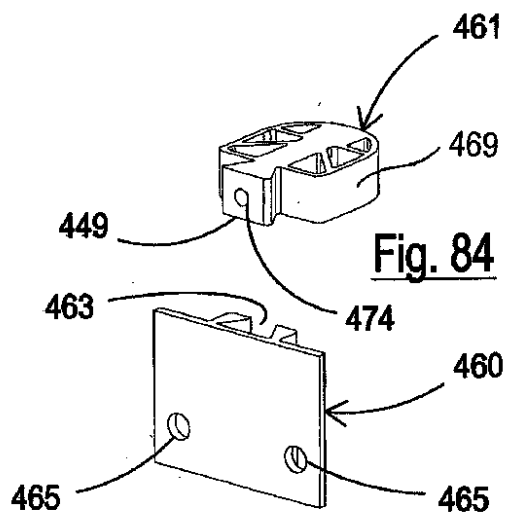
【図 8 3】



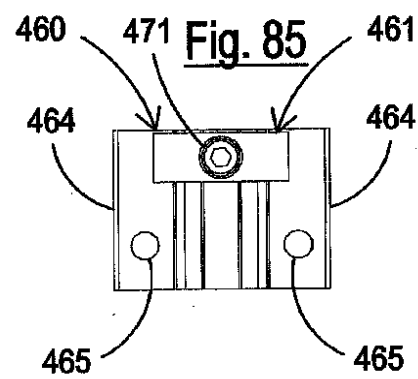
【図 8 2】



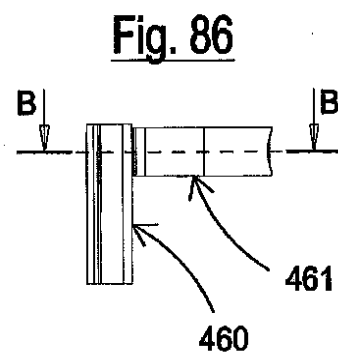
【図 8 4】



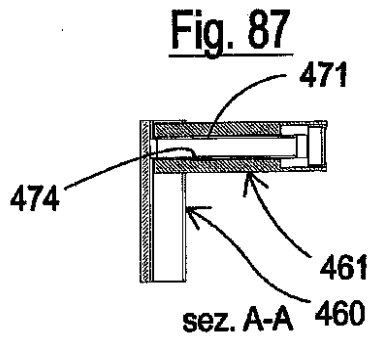
【図 8 5】



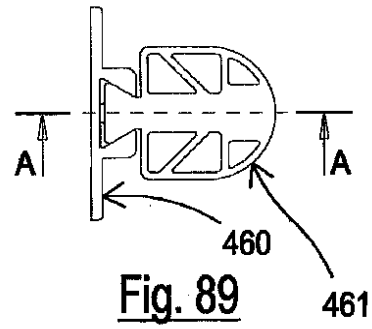
【図 8 6】



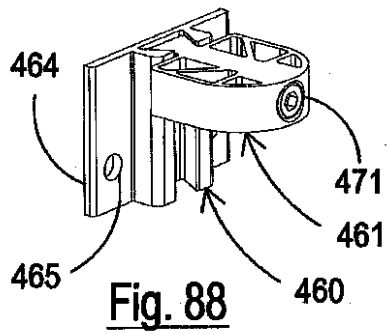
【図 87】



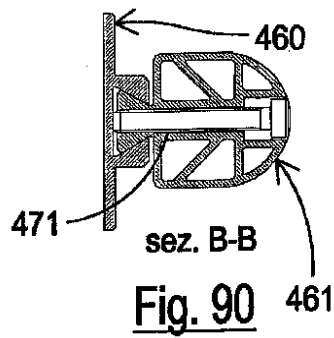
【図 89】



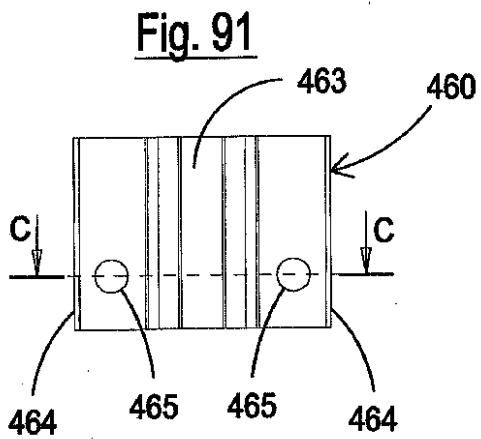
【図 88】



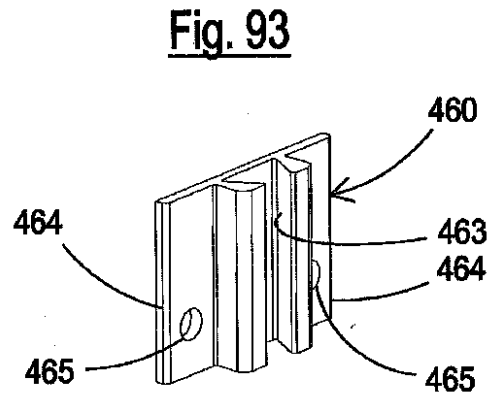
【図 90】



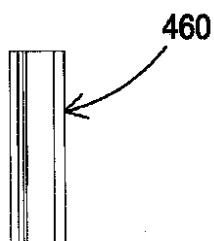
【図 91】



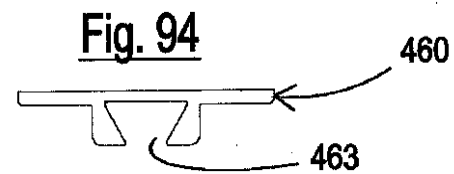
【図 93】



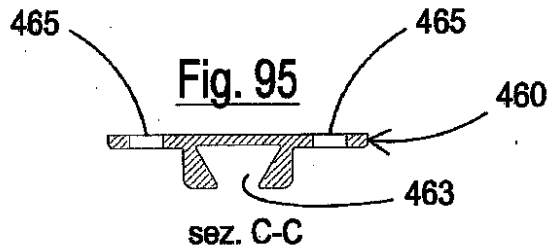
【図 92】

Fig. 92

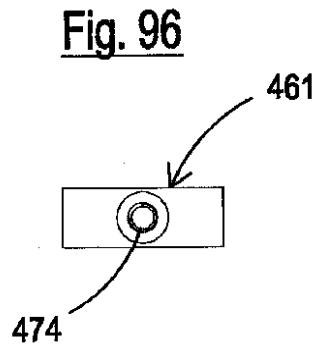
【図 94】



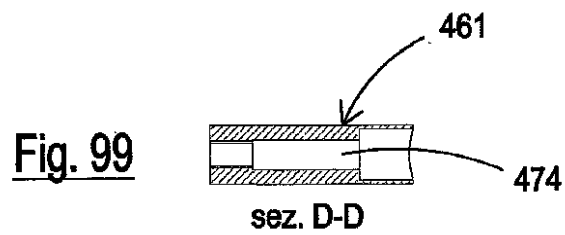
【図 95】



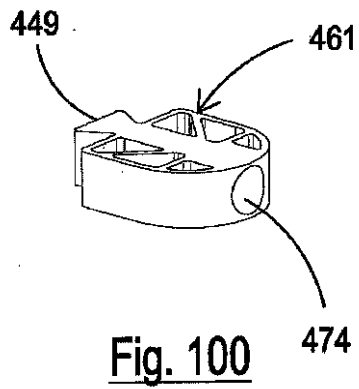
【図 96】



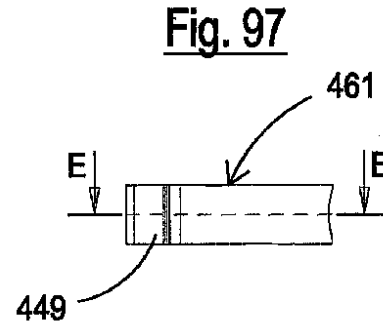
【図 99】



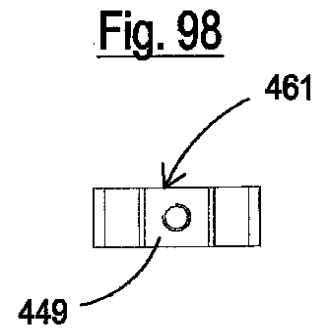
【図 100】



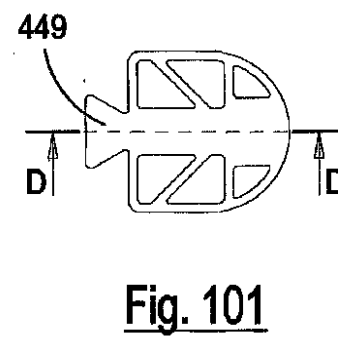
【図 97】



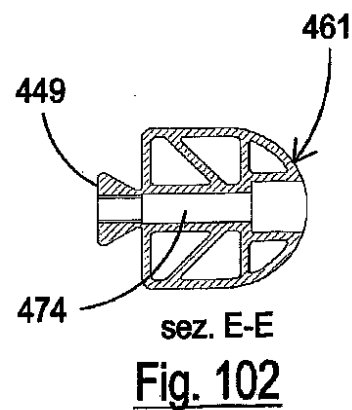
【図 98】



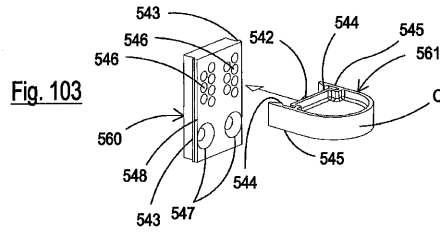
【図 101】



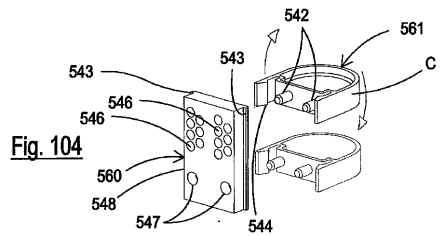
【図 102】



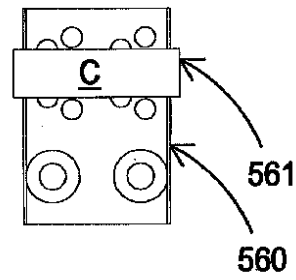
【図 103】



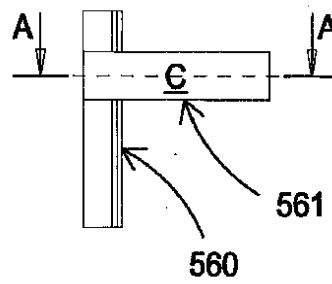
【図 104】



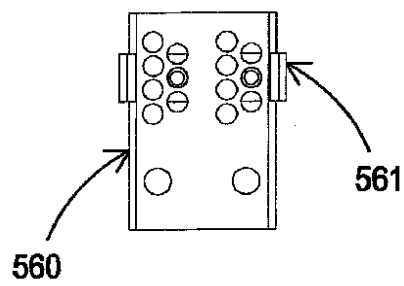
【図 105】

Fig. 105

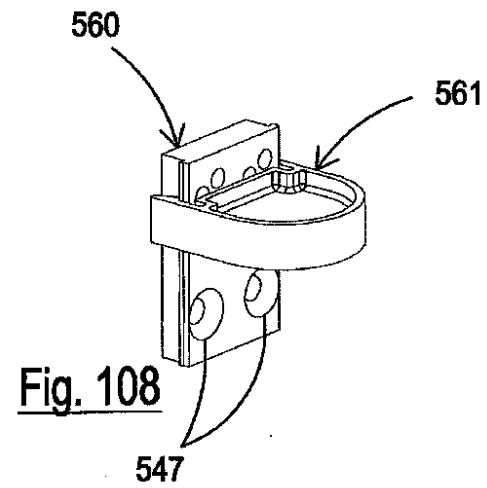
【図 106】

Fig. 106

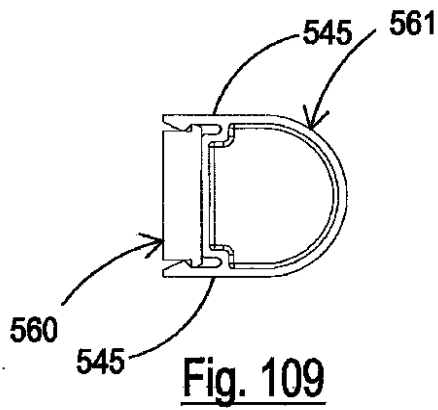
【図 107】

Fig. 107

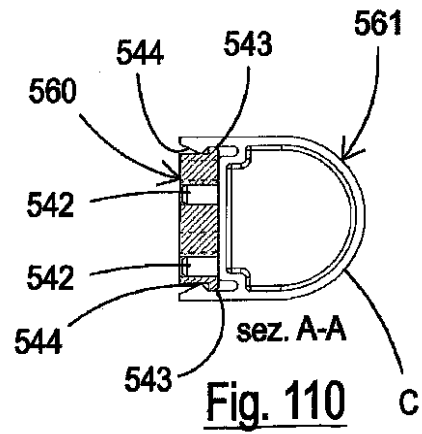
【図 108】



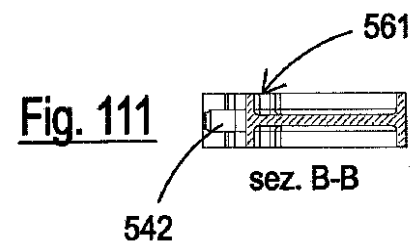
【図109】



【図110】



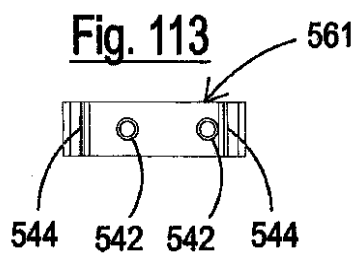
【図111】



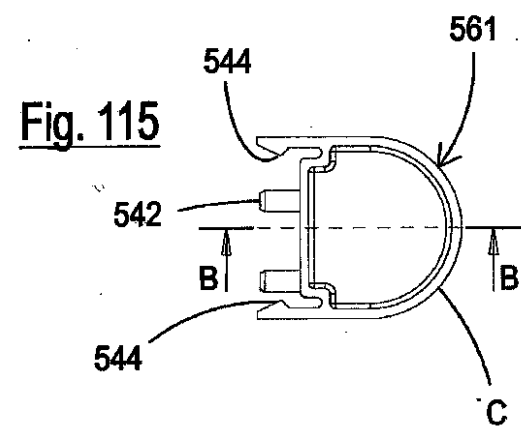
【図112】



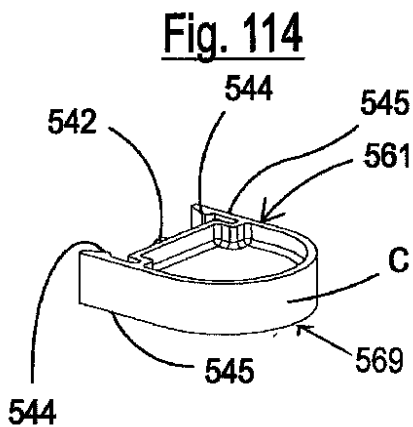
【図113】



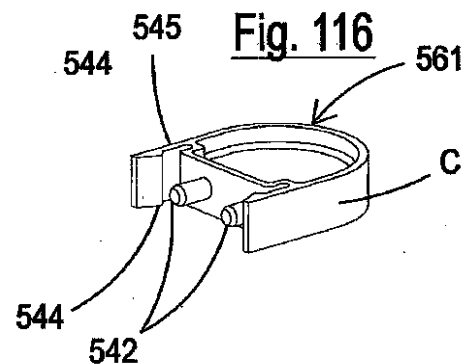
【図115】



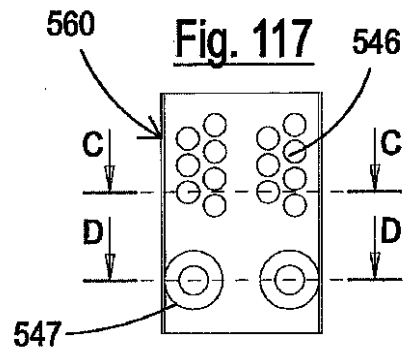
【図114】



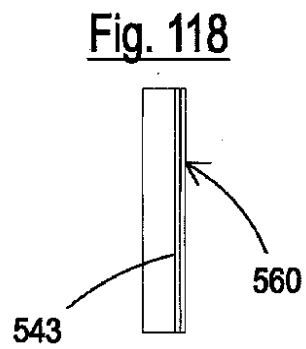
【図116】



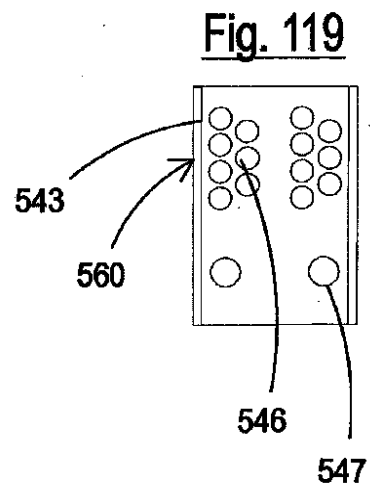
【図 117】



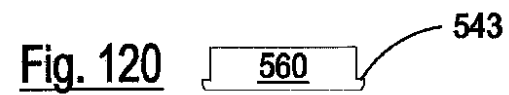
【図 118】



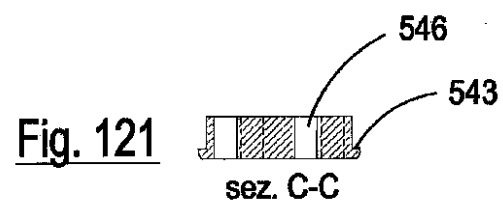
【図 119】



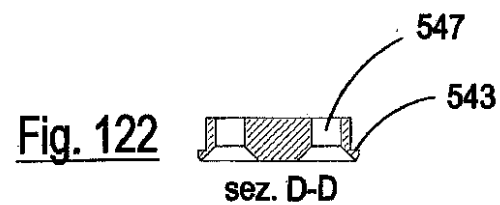
【図 120】



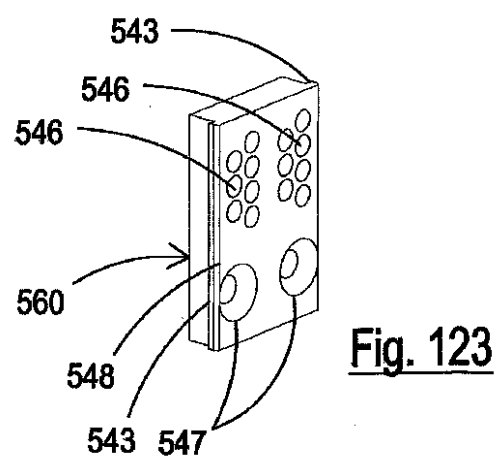
【図 121】



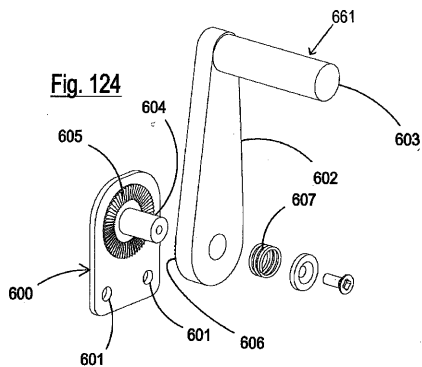
【図 122】



【図 123】

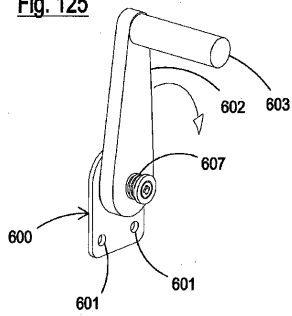


【図 124】



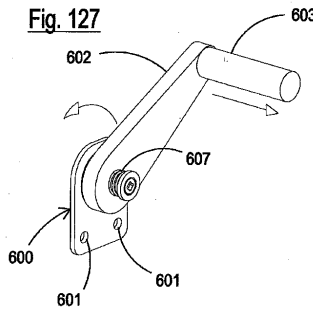
【図 125】

Fig. 125



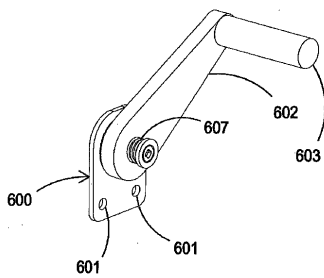
【図 127】

Fig. 127



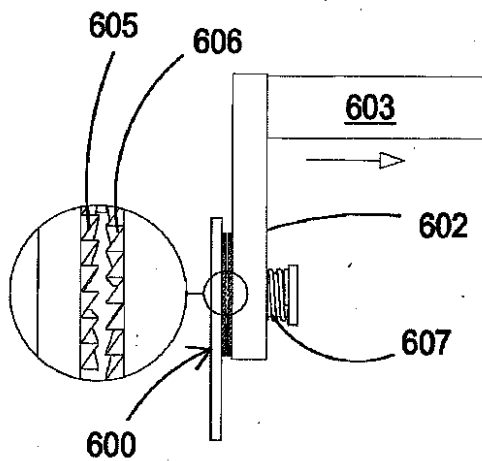
【図 126】

Fig. 126



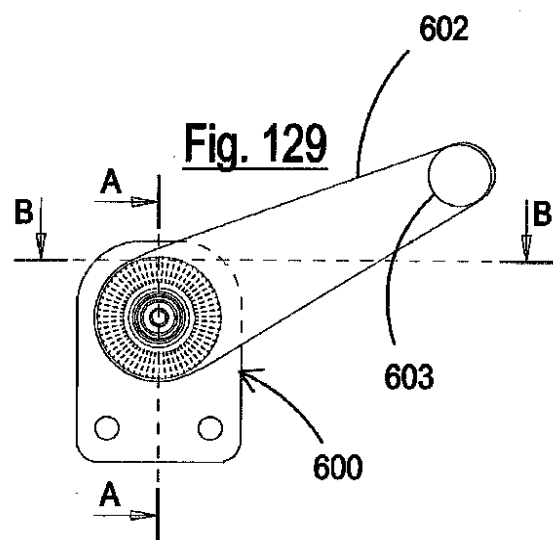
【図 128】

Fig. 128

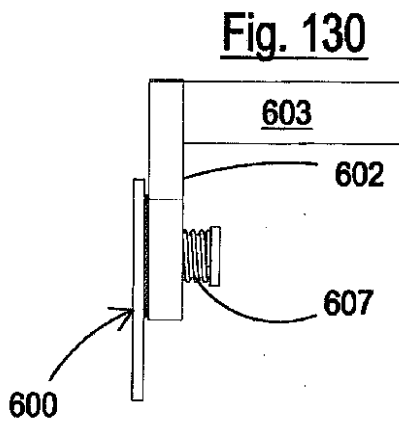


【図 129】

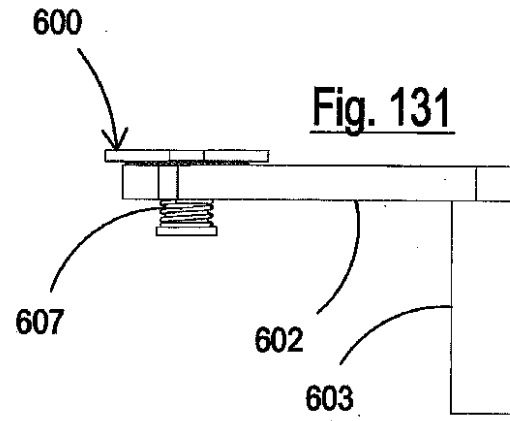
Fig. 129



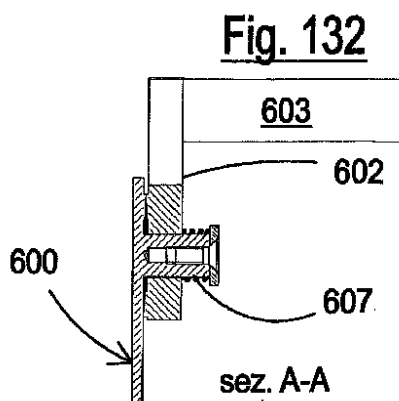
【図 130】



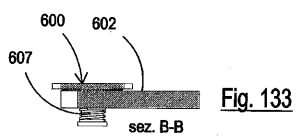
【図 131】



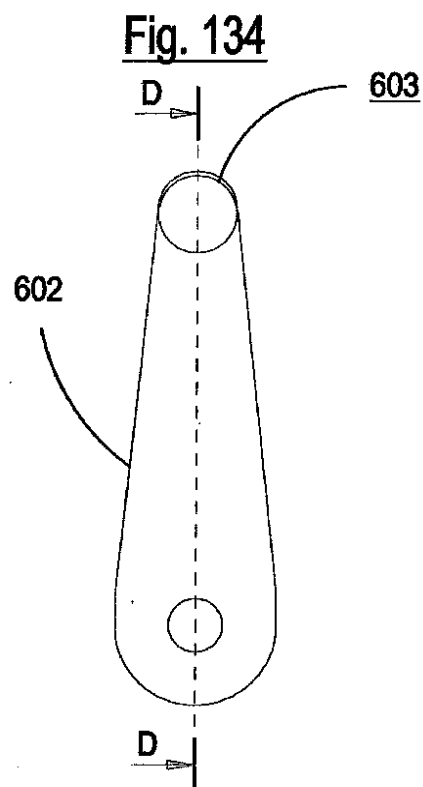
【図 132】



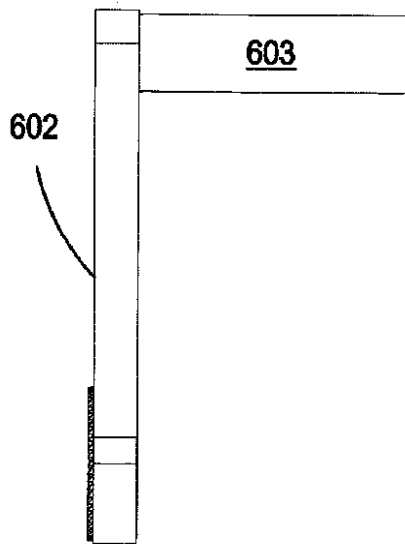
【図 133】



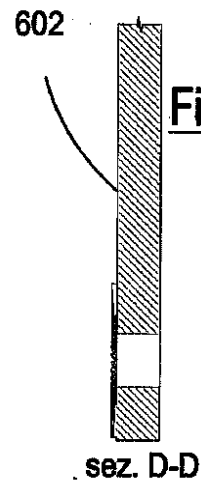
【図 134】



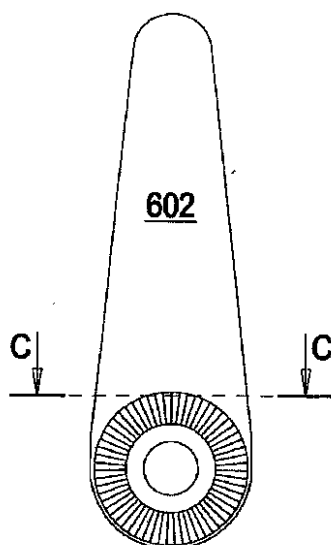
【図 1 3 5】

Fig. 135

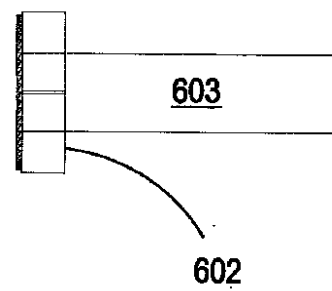
【図 1 3 6】

Fig. 136

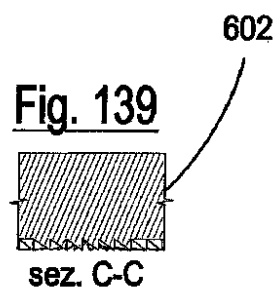
【図 1 3 7】

Fig. 137

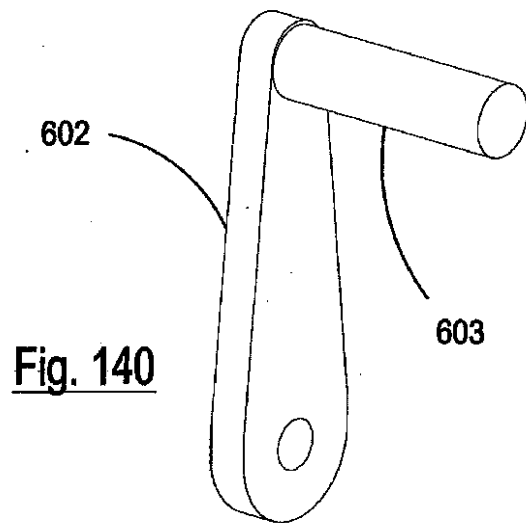
【図 1 3 8】

Fig. 138

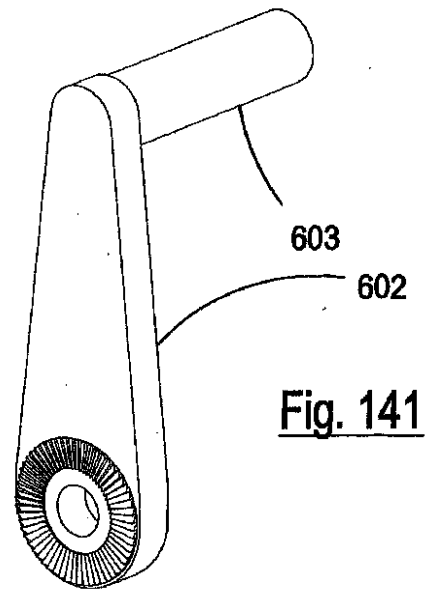
【図 1 3 9】

Fig. 139

【図 1 4 0】



【図 1 4 1】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平09-010055 (JP, A)
特開2009-207536 (JP, A)
実開昭59-048262 (JP, U)
実開昭55-111456 (JP, U)
実開昭55-066549 (JP, U)
特表2012-524873 (JP, A)
国際公開第03/068024 (WO, A1)
国際公開第2012/084067 (WO, A1)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A47B 77/04